第十二回国立大学一般職員会議報告書

2018.10.7-8
In YAMAGUCHI

Design Our Work

～あなたのパンはどんな味？～

国立大学一般職員会議実行委員会

目　次

1-1．コクダイパン会議の歴史と概要　2

1-2．第 12 回コクダイパン会議の概要　4

コラム１．テーマパンの紹介　5

2-1．全体会（オープニング）　6

2-2．分科会Ⅰ　7

2-3．分科会Ⅱ　8

コラム２．コクダイパングッズ紹介　8

2-4．分科会Ⅲ　31

2-5．アナログ SNS　32

2-6．全体会（クロージング）　33

コラム 3．懇親会　34

3．アンケート結果　35

4．終わりに　～謝辞～　41

コラム 4．第 12 回コクダイパン会議の作り方　42

資料編　43

1-1. コクダイパン会議の歴史と概要

『自主的・自立的な環境の下での国立大学活性化』等を目的として、平成 16 年 4 月に全国の国立大学は国立大学法人へと移行しました。しかし、実際には旧態依然とした体制が続く等、法人化以前と変わらない課題があることに、職員の中には漠然とした「危機感」を感じていた人たちがいたのです。

平成 19 年 7 月 15 日、そんな国立大学の将来を危惧した全国の一般職員有志が集まり、国立大学の将来像や直面する課題を議論し、具体的方策を見出していく自発的な活動を行いました。これが国立大学一般職員会議、すなわちコクダイパン会議の始まりです。それから毎年開催場所やテーマを変えながら、コクダイパン会議は行われています。

コクダイパン会議は、参加者一人ひとりが今後の国立大学で活躍できるよう、全国各地の多様な国立大学等の職員と触れ合うことにより切磋琢磨し、自分自身において必要な資質を考え、培い、行動していくための一助となるような自己研鑽の機会となること、また、参加者相互の協力や意見・情報交換のための人的ネットワークの構築・拡大を目的としています。

全国各地で開催してきたコクダイパン会議は、今年で 12 回目を迎えました。会議創設から 10 年以上が経ち、国立大学を取り巻く環境は大きく変化し、今までにない新しい局面を迎えています。コクダイパン会議も、「参加者一人一人によって作り上げていくもの」という根幹は変わらないながらも、取り上げるテーマは、国立大学界全体の未来を考えるものから、より職員個々人に焦点を当てたものに変化してきています。

第 12 回コクダイパン会議も、開催を心待ちにしてくださっている全国の一般職員の皆さんの応援と、多くの方々のご理解、ご支援のおかげで、無事実施することができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

【各回コクダイパン会議概要】

開催回	開催日	会場校	参加者数	テーマ キーワード
第 1 回	H19.7.15	京都大学	25 機関 72 名	未来へ繋がる扉を拓こう コミュニケーション、他者との関係性
第 2 回	H20.8.2 ～8.3	東京大学	41 機関 123 名	踏み出した一歩その先の未来へ 大学の使命（教育、研究、社会貢献）との関係で私たちが果たすべき役割
第 3 回	H21.8.1 ～8.2	神戸大学	53 機関 175 名	未来を語ろう、探そう、ともに見つけよう 国立大学・国立大学職員の将来像
第 4 回	H22.7.17 ～7.18	金沢大学	47 機関 172 名	ともに、今を見つめ、明日を語り、未来を目指そう 社会や地域とともに発展するために国立大学や私たちにできること

第 5 回	H23.9.24 ～9.25	名古屋大学	53 機関 209 名	未来のために、ともに今を考え、私たちの明日をつくりだそう 大学職員の 10 年後のキーパーソン像
第 6 回	H24.9.16 ～9.17	宮城教育大学	50 機関 153 名	ともに見いだす潜在性、自ら拡げる可能性 国立大学職員のセールスポイント
第 7 回	H25.9.22 ～9.23	横浜国立大学	51 機関 125 名	Action!～「気づき」から「動きへ」～ 課題解決に向けて行動するために
第 8 回	H26.10.12 ～10.13	東北大学	46 機関 158 名	描こう！未来見つけよう！自分軸 理想とする国立大学職員像と行動指針（クレド）作成
第 9 回	H27.10.10 ～10.11	一橋大学	54 機関 122 名	Pan can do it !!～自分の仕事が未来を変える～ 国立大学職員としての可能性の認識、明日からの行動目標作成
第 10 回	H28.10.9 ～10.10	大阪大学	44 機関 100 名	前向き思考のススメ～つながるグッドサイクル～ 課題解決のための前向きな具体策と周囲への好循環
第 11 回	H29.10.8 ～10.9	筑波大学	44 機関 108 名	pan by one ～創ろう！理想の働き方 PLAN～ 大学職員としての QWL
第 12 回	H30.10.7 ～10.8	山口大学	38 機関 76 名	Design Our Work　～あなたのパンはどんな味？～ 新しい解決策を提案できる人材になるために

1-2. 第 12 回コクダイパン会議の概要

開催校について

第 12 回コクダイパン会議の開催校、山口大学についてご紹介します！

山口大学は、長州藩士「上田鳳陽」によって 1815 年に創設された私塾「山口講堂」を起源とし、今年で創基 203 年目を迎えた歴史のある大学です。「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」の理念のもと、驚き、個性、出会い、夢を“発見し・はぐくみ・かたちにする”スピリットを大切にしています。

また、山口、長州といえば「明治維新」、今年は明治維新 150 年の節目の年だとご存知の方も多いと思います。山口大学には、明治初期に活躍した井上馨、遠藤謹助、井上勝、山尾庸三、伊藤博文の長州五傑を称える石碑もあります。この節目の年にコクダイパン会議を山口の地で開催できたのも、何かご縁を感じます。

参加者について

そんな山口大学で開催された第 12 回コクダイパン会議には、全国から多くのパンの皆さまから参加申込をいただきました。北は北海道、南は沖縄県まで 25 都道府県 38 機関から、参加者は総勢 76 名！！

25 都道府県

38 機関

総勢 76 名が参加！

また、今回のコクダイパン会議で電気通信大学からご参加をいただき、第 1 回からの通算で

全国立大学制覇を達成しました！！

今後も、全国の国立大学法人等からのご参加を心よりお待ちしています！

第 12 回テーマについて

第 12 回コクダイパンのテーマは「Design Our Work ~あなたのパンはどんな味？~」です。

今回の会議では、幅広い分野の職員同士で意見を交わし、今まで自身が知らなかった多様な思いや考え方を知り、”Design”することで、各自の課題に対して広い視野を持って取り組むことができる、新しい解決策を提案できる人材になることを目指しました。

また、会議を通じて積極的に発信し、アウトプットできる“行動するアイデアパーソン”になってほしいという願いも込められています。

コラム１．テーマパンの紹介

このコラムでは、コクダイパンの顔となるテーマパンについてご紹介します。

第１２回コクダイパン会議のテーマパンは「カルツォーネ」。

名前を聞いてすぐに「あ～、あれね！」となる方の方が少なかったかもしれませんが、ピザと同様の材料を使い、記事を半分に折りたたんで包み焼きしたもので、ピザが食べ歩きしやすいよう進化したものとも言われています。本来食べ歩きしにくいピザを持ち歩いて食べたい！という想いと工夫から生まれた「解決策」であり、アイデアと工夫によって解決策を提案できる、という目標に通ずるところがあります。

また、カルツォーネは国や地域によって中に入れる具材も異なり、トマトとモッツァレラの入った定番のものから、ハムやサラミ、野菜など、組み合わせも様々です。この点から、今回のコクダイパンが、全国から集まったパン達と交流し、いろんな意見や考え方に触れ、新たな視点を持つきっかけになればという意味も込めて、今回のパンとさせていただきました。個性あふれるパンを食べながら多くの“パン”と交流することで、新たな視点を持って課題に向き合うきっかけとなっていたらうれしい限りです！

２日目の昼食パンは、山口で大人気のパン屋さん「シュクルヴァン」さんにご用意いただきました。メインのカルツォーネの他に、「おにぎりパン」「チキンチキンごぼうパン」「枝豆塩バターパン」の３種類のパンをランダムでお配りさせていただきました。

2-1. 全体会（オープニング）

第 12 回コクダイパン会議当日の 10 月 7 日、心配されていた台風は前日のうちに山口県を通過し、無事開催の運びとなりました。初参加の方はやや緊張の面持ちも見られましたが、自然と近くの席の参加者同士で名刺交換が始まり、開始前から大講義室は活気に溢れていました。

予定よりやや遅れて 13 時 50 分、司会の挨拶と共にオープニング全体会がスタートしました。冒頭、会場校である山口大学の田中理事より激励の言葉を頂き、72 名の参加者は期待とやる気に意気高揚となりました。

その後、コクダイパン会議の経緯や方針、3 つの基本ルールを確認し、会議全体の流れと今回のテーマである「Design Our Work　～あなたのパンはどんな味？～」について説明がありました。

最後に会議の成功を願って全員で拍手を行い、第 12 回コクダイパン会議はついに幕を開けました。

アイスブレイク

2 日間の議論の準備体操として、4 名 1 グループとなってインタビュー形式のワークを行いました。

今回は「〇〇×私」というテーマのもと、「通勤」「昼休み」「休日」「パン」と様々なテーマに沿ったエピソードや意見・考えを 1 分でまとめて頂き、それを各自発表して頂きました。発表者の右隣の人が発表に対して質問をする、ということを繰り返していき、会話を掘り下げていくことで参加者同士の距離も縮まり、さらに緊張もほぐれ、各グループ大いに盛り上がっていました。

発表・質問ともに 1 分ずつというかなりタイトな時間進行でしたが、同じ職員の異なる日常を知る機会となり、また短時間でエッセンスをまとめる練習として、良いウォーミングアップになったのではないかと思います。

2-2. 分科会Ⅰ

分科会Ⅰでは、少人数のグループに分かれ、自分や大学として今ある課題や悩みを共有・視覚化しカテゴライズすることで客観的に現状を把握するとともに、自由な発想や視点から様々な解決策を考えることで分科会Ⅱ、Ⅲにつながる柔軟な思考の土台をつくることを目的としました。

全体会を終了し講義室に移動すると、開始前からさっそく名刺交換がはじまり、活気溢れるにぎやかな雰囲気で分科会がスタートしました。そのおかげもあってか、ざっくばらんに意見を出しやすかった、グループ内で皆が発言できた、といった感想もありました。

分科会Ⅰは、自己紹介等を行った後、大きく 3 つのパートに従ってワークを行いました。

（1）【アイスブレイク】お悩みフラッシュあるある

まずは日ごろから感じている悩みや課題を、短時間でできるだけ多く書き出す簡単なゲームを行いました。ここでは、3 分という短い時間で、ゲーム感覚で行うことで、分科会Ⅰ全体を通してリラックスして柔軟に考える準備ができたようです。また、こうして考えた悩みをグループ内で共有することで、自分が意識していなかった悩みに気付くことができた、といった意見もありました。

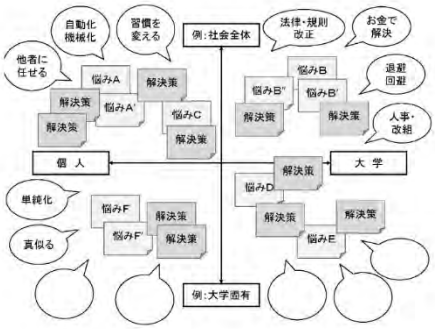
（2）悩みのカテゴライズ

次にグループワークとして、模造紙に線を引いて 4 分割にし、カテゴリごとに悩みを分類することで、悩みの視覚化を行いました。頭の整理を行うことで、解決策を考えるヒントを得ることができました。

（3）解決案の作成

最後に、整理した悩みに対して、まずは個人で解決策を考えた後、グループ討議を行いました。ここでは「地球を滅ぼさなければ」何をしても OK とし、様々な視点から考えることに重きを置きました。現実的ではない意見も発言しやすく、各グループから時折笑い声も聞こえてきたのが印象的でした。

一方で、出てきた解決策をもっと深く掘り下げたかった、時間がもう少し欲しかったとの声も多く聞かれ、ここでの解決先を次につなげるような仕組みづくりや、タイムスケジュール等については、今後の検討課題となりました。



2-3. 分科会Ⅱ

分科会Ⅱでは、事前課題や分科会Ⅰで視覚化された仕事の課題や悩みを精査し、解決策を提案するための手がかりをつかみ取る手がかりとするため、ブース形式の事例紹介並びにワールドカフェ形式のグループワークを 2 日間にわたって行いました。

＜事例紹介＞

今回の事例紹介は「業務上の悩みを解決した方法や改善につながった行動、今後の目標（以下【A】）」又は「業務上の上手くいかなかった事例や失敗してしまった行動、今後の課題（以下【B】）」について、事前に依頼した複数の参加者に発表していただきました。

また、発表後は各ブースで参加者から質問・意見交換が活発に行われ、事例紹介者・聴講者双方にとって仕事に対する新たな気づきや共感を得る機会となりました。事例紹介者の方々におかれましては、事例紹介の依頼を快くお引き受けいただき、本当にありがとうございました。

コラム２．コクダイパングッズ紹介

第 12 回のコクダイパングッズは“ロール型付箋”！従来の付箋と違い、テープのように全面に粘着面がついており、自分の使いたい長さにカットして使用することができます。

付箋をもっと便利にできないか？新しい使い方はないか？そんな要望から生まれていそうなこのロール型付箋は、第 12 回コクダイパン会議のコンセプトにぴったり。今回練りあった議論を思い出していただけるよう、コクダイパン会議のテーマをプリントしました。皆さんの職場で、ぜひご活用ください・・・☆ミ

【B】継続しなかった勉強会

神戸大学　藤井　直迪さん

【事例紹介概要】

入職 1 年目の 2014 年に部署をまたいだ若手勉強会（新卒・中途問わず）を開催した。参加者は 1 名～10 名とバラつきがあったが、ほぼ一人で実施していた為モチベーションが続かず、計 4 回で頓挫してしまった。

【取組理由】

・大学という職場に入りたてで他部署の仕事が全く分からなかったので、仕事内容や職場の様子が知りたかったことと、交流の幅を広げたかったのが取り組みの理由。特に異動を数年後に控える身として、いろいろな人の仕事に対する考えを知っておきたかった。

・業務多忙で時間が空いたことや、ほぼ一人で企画や周知、ＨＰ作成等をやっていた為モチベーションが下がり、開催しなくなってしまった。そこまで参加人数も多くなかった為、個人での情報収集や、いろいろな飲み会に参加することでも十分なのかなと思ってしまった。

【課題目標】

もはや新人でもなく中堅に近い年次となったので、改めてベテラン職員や他部署の話を聞くことができる機会を作ったり、最近入ってきた職員に伝えられることがあれば場を設けたい。また、どういう形での自己研鑽やコミュニティづくりが考えられるのか（飲み会なども含め）模索していきたい。

【参加者と話したい！】

・職員同士で勉強会を実施したことがあるか。その場合はどんなテーマで実施したか。

・職場で自主勉協会があれば、参加したいと思うか。

・集客や継続の為に必要なことはどんなことが考えられるか。

・飲み会と勉強会、どっちが参加したいですか？笑

【発表後の感想】

発表後に色々な職員の方から伺った所、SD として大学全体として取り組まれていたり、通年で先輩職員と新人が交流を重ねるバディ制度等、様々なスタイルの勉強会を教えて頂き、目から鱗でした。自分だけでなく、多くの人にとってプラスになる会を改めて考え直し、自大学だけでなく大学横断的に近々何か実現したいと思います。ありがとうございました！

【A】業務管理について　～新人係員と係長が１３００の業務をこなすまで～

岐阜大学　舟橋　皓希さん

【事例紹介概要】

大学院連合創薬医療情報研究科は、後期３年のみの博士課程である。学生数約７４００名の岐阜大学にあって、１学年の定員６名の小さな研究科。しかし侮るなかれ、他部局からの依頼業務は大小合わせて年間約１３００に上る。加えて日常の経理書類も舞い込む。対して、事務職員の体制は常勤２名と非常勤３名の計５名。この５名で、総務・学籍管理・人事・会計・施設管理など、研究科の全業務をこなすのである。

そんな私たち、大学院連合創薬係の「命づな」とも言えるのが、係長と係員共有の業務管理ファイルである。全業務を一覧にし、進捗や決裁日をデータベース化することで、期日管理や過去の業務の索引として活用できている。

【取組理由】

元々は係長が独自に構築したファイルであったが、係の構成変更（事務長補佐１名・係長１名から係長１名・係員１名に変更、また非常勤職員の勤務時間削減）に伴い、研究科の業務全体を係長と係員の双方で把握し、かつ見直す必要が生じたため。

【課題目標】

ファイルの更新を係長に頼ってしまっている側面があるのが個人的な反省点であり、今後改善していきたい。

また、将来の異動の際には、このファイルを活用することで、実務部分と過去の情報を後任に引き継げるよう努めたい。

【参加者と話したい！】

１係で複数分野の業務を担当されている方、反対に複数の係で分業をされている方、双方の業務管理や大変な部分を意見交換したい。

【発表後の感想】

入職２年目ということもあり、大学職員としての知識も薄い中、「自分自身の仕事」を例に他大学の方のお話やご意見を伺え、また意見交換できたことは、私自身にとってプラスになったと感じています。

私事ですが、１０月から係長が異動し、係の体制が変わりました。今まさに、発表した業務管

理ファイルを使いながら、新係長と日々悪戦苦闘しながら業務をこなしています。自分の１年半の振り返りとこれからのために、とても良いタイミングでこの発表の機会をいただけました。皆様、ありがとうございました。

短い時間であり、また拙い発表でしたが、もしご参考にしていただけた方がいらっしゃれば幸いです。

【A】宮崎大学生向けに就職・キャリアに関する情報を発信するための Twitter を企画・運用

宮崎大学　梅北　誠太さん

【事例紹介概要】

１．下調べ・根回し

LINE や Twitter、Facebook など、どの SNS が学生に最も使われているかを調べ、その中でも情報セキュリティー上において実用に耐えうるものはどれかを情報関係部署と協議を行った。

2. 企画書の作成

就職に関する委員会にて議題として、Twitter の活用を提案するため、企画書を作成した。SNS についてあまり詳しくない教職員にもなるべく理解していただけるよう心掛け、情報セキュリティーにおいて実用に耐えうるものであることと、若者の利用が多いことを中心に説明を行った。

３．運用

Twitter の運用を開始し、多くの人にフォローしてもらうよう、ホームページの埋め込みやポスターの配布等を行った。

【取組理由】

SNS の普及によりメールを確認する習慣のない学生が増えつつあり、今までのメール案内だけでは全体に行き届かない状況である。また、就職に関する案内が本学に届く量は多いが、それらを学生に案内する方法が掲示板にて掲示するしかなかった。そこで、多くの学生に案内が行き届くよう、拡散性の強く若者が２番目に利用している SNS（Twitter）を活用して案内することを企画し運用を行った。

【課題目標】

今年度から入試課に配属となったため、受験生獲得において様々な広報手段等を考案していきたい。

【参加者と話したい！】

課内または部内での業務改善等の意見を定期的に募集するような取り組みを行っているのかを聞いてみたいです。（全学は除く。）

【発表後の感想】

　自分と他の人との発表するスタイルや方法についてを比較することができ、大変勉強になりました。

【A】コミュニケーション不足解消と残業解消について

琉球大学　天願　茜さん

【事例紹介概要】

大学事務の仕事を始めて１・２年目や入試の時期は忙しく、周りとのコミュニケーションをとる時間が少なくなり、上司や先生方、その他事務の方々の考え方が分からず距離ができてしまった。考え方を学ぶために、普段から意識して色んな人たちと雑談をし、小さなことも直接会った時に質問すると、お互いの考え方についてより深く知ることができ、さらに知らなかったことをたくさん教えてもらえ知識が深まり、結果的に仕事が円滑に進むようになり毎日とても楽しくなった。

１年目は仕事に慣れず残業が多かったため、２年目以降は去年のスケジュールを参考に、数ヵ月分の予定を事前に立て、いつ何の依頼があるかを把握しスケジュールを調整し、取り組む期間を長く設定して早めに処理していくことで残業が解消された。

【取組理由】

・先生方や同じ事務職員の意見を知った上で仕事をしたい、また楽しい雰囲気で仕事をしたいと考えたため。

・１年目は残業が多かったため。

【課題目標】

学部だけではなく他部署の方とも交流し、大学全体の考え方を知ったうえで仕事を進めていきたい。また他大学の事務とも積極的に交流し、大学間の違いから業務内容を改善したい。

いろんな人と出会って様々な考え方を吸収し、自分の考え方を常に見直しながら仕事をしていきたい。

【参加者と話したい！】

・2021 年度の入試改革についての取組状況や公開時期について聞いてみたい。

・就職率が低く、就職活動への取組時期が遅く消極的な学生が多いため、就職イベントを学部内で行い最初のきっかけを作る等工夫はしているが、他にも学生が就職活動に積極的になるにはどうしたらいいか？

・奨学金やイベント情報の学生への周知方法について。

・スキルアップのため勉強していることがあれば聞いてみたい。

・事務室に来る以外で、学生（先生）と交流する機会はどれくらいあるか？

【発表後の感想】

発表前はこのような発表で参考になるのかと不安だったが、質問も多く（雑談の仕方や先生との関わり度合い等）いただき、話を聞いてくださった方とも交流でき嬉しかった。また私の発表を聞いてくれて感謝の気持ちでいっぱいで、その後のワールドカフェ等でもスムーズに交流をしていくことができた。発表時間は少し長く感じ、頭で考えながら時間を残さないように色々話し続けることが大変だった。何もない中で自分なりに考えて話し続けることはなかなかないので良い機会になったし、コクダイパン研修後から、以前より話をし続けることに抵抗がなくなりスムーズに話をすることができ、私の中での目標だった自分に近づくことができた。発表することがとても良い練習になったと思う。仕事に役立てていきたい。

【B】教員や他学部との連携について

大分大学　和智　麻未さん

【事例紹介概要】

私の所属する学部では複数の資格が取得できるが、他学部でも同様の資格を取得できるようになったことで、二学部合同で会議を行うこととなった。しかし、開催するにあたり、教員や各学部の事情を上手くまとめられず、準備等が大幅に遅れてしまった。

【取組理由】

大分大学では平成２８年度に、教育福祉科学部から教員養成を主とした教育学部へ改組し、同学部の福祉系の課程を新学部として設置した。これにより、カリキュラム上両学部で実習が重なる今年度に限り、合同で会議を行うことになった。

合同開催するにあたり、教員や上司の意見聴取や調整にかなりの時間を要したことのほか、会議の名称や予算など、思いもよらなかった問題が次々と発生し、準備等が例年に比べ大幅に遅れてしまった。

本事例の原因としては、改組や新学部設置とともに教員の所属が新学部に移ったことで、事務と教員間のやりとりが希薄になったことや、事務も教員もやるべきことの予測が出来ていなかったためだと考えられる。

【課題目標】

本学では平成２８年度以降、多くの学部・研究科で改組を行ったが、今回の事例で、今後「今まで通り」では進まないことを痛感したので、誰がどのように関わっていくのかを予測しながら業務を進めていきたい。

【参加者と話したい！】

予測しながら業務を進めることについて、方法などアドバイスをいただきたいです。

【発表後の感想】

自分にはない視点から意見をいただき、他大学の取り組みについても伺うことができたので、仕事に対する視野が広がったように思います。

これまで仕事について発表した経験もなく、どのように話を展開したらよかったか…など、反省すべき点はたくさんありましたが、良い経験となりました。機会を与えてくださった実行委員の皆様、ブースに来ていただいた皆様、ありがとうございました。

【A】放射線業務従事者講習の英語用通知文の作成

京都工芸繊維大学　北井　清寛さん

【事例紹介概要】

放射線やエックス線を扱う実験者については、実験従事前に大学が行う講習を受講することが法令・学内規則等で義務付けられており、本学では前期（４月上旬）と後期（９月下旬）に開講している。

近年、留学生が増えその中には日本語を全く分からない学生もおり、講習の案内を見落としたり、手続きについて窓口に質問に来たりする学生もいた。

状況を改善すべく、今年度４月英語の講習に間に合うよう、放射線関係のテキストや他大学の英語でのお知らせ文を参考に、昨年１２月頃より案内文の英語での作成を始めた。

繁忙期と重なってしまい作成が遅れたため、今年度前期講習の案内には間に合わなかったものの、その分日本語での案内文を通常より多く発信することで見落としがあったという連絡を受けなくなった。

また、案内文作成の副産物としてできた単語集等を活用し、窓口対応をある程度スムーズに実施できるようになった。

今年度後期講習については、６月以降の閑散期に集中して作業に取り組むことで、無事に英語での通知文を発信することができた。

【取組理由】

・近年、留学生が増えその中には日本語が全く分からない学生もおり、講習の案内を見落としや手続きの不備により、実験に従事できず卒業研究や修士論文に影響が出ることを避けるため。

・自分の出身大学では英語併記の通知文がよく出ていたが、本学ではあまり無かったので、自身の英語力向上も兼ねて行ってみようと考えた。

・閑散期に何かやってみようと思ったため。

【課題目標】

・突発的なお知らせ（会場変更など）についても英語で発信できること。

・講習の中で事務手続きを説明するので、英語で説明できるようになること。

・自身の英語力の向上。

【参加者と話したい！】

・新しいことをするときに上司の理解をどう得るか。

・閑散期に皆さんが行っていること。

【発表後の感想】

元々人前での発表が得意ではなく、緊張してしまい声が小さくなったり話が飛んでしまったりといったこともあったが、おおむね理解を得られたように思う。一方で、法令や本学の現状について具体的な説明もなく話をしてしまったため、前提となっている情報を説明してから本題に入るなどの工夫が必要だったように感じる。

この事例紹介の経験を踏まえ、前提の話をしてから本題に入るよう職務でより意識するようになった。この場を借りて、このような機会をいただいたことに感謝申し上げる。

【A】地域連携をどのように促進するか　―教育プログラムの開発において―

山口大学　山下　貴弘さん

【事例紹介概要】

地方創生を目的とした文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋)」において、地域志向型カリキュラムの開発等に携わるコーディネーターの視点から、教育における地域連携の可能性や課題についてご紹介する。

【取組理由】

山口大学は平成 27 年より COC＋に採択され、高等教育機関・企業・自治体等 161 機関(平成 30 年 8 月現在)が事業協働機関に参画し、魅力ある企業情報の発信やインターンシップの開発等を通じて地域の未来を担う人材を育成する教育プロジェクトをはじめた。

本発表者は主に学生と地域に寄り添うコーディネーターとして、地域志向型の教育プログラムを開発しているが、学生と地域の方々との接触が少ないと感じている。たとえば、学内のアンケートでも県内企業を知らないという回答が多かった。

【課題目標】

産学連携と言えば研究開発と同義であったが、これまで地域を担ってきたのは人であり、地域の未来を担う人を養成する主役は、地域基盤社会の推進を担ってきた大学等である。

限られた資源によって教育が縮小しているように感じられる一方、地域のステークホルダーとともに「共育」することができれば、教学改革の可能性が拡がるだろう。

そこで、ステークホルダーと個の関係・組織の関係を整理して、地域連携のあり方や関わり方について考えたい。

【参加者と話したい！】

学生・教員・職員・地域の企業・自治体等と地域の教育力を活かして、地域でも活躍できる人材育成について。

とくに教育において職員が果たす役割や COC＋事業終了後もステークホルダーとの関わり方について。

【発表後の感想】

おいでせ、山口へ！そして数ある分科会の中から選択していただきありがとうございました。

民間からの登用で大学の教育の開発に携わらせていただき、コーディネーターといういわゆる第 3 の領域と呼ばれる立場から、地方国立大学の現状と展望についてお話させていただきまし

た。

運用体制や取り組むポイントについて意見交換させていただく過程で、これから大学に貢献できるポイントがさらに明確になったように感じます。この場を借りて皆様へ御礼を申し上げるとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお活動に興味関心を持っていただいた方は、「COC＋　山口」で検索していただくか、下記URL に活動紹介を掲載していますのでご覧いただきますと幸いです。
http://www.yamaguchi-u.ac.jp/coc-plus.html

【A】脱行き当たりばったり！！　目先のことに振り回されない！

京都大学　一宮　藍子さん

【事例紹介概要】

採用１年目の頃、部局への指示が後手後手になる・締切直前で勘違いやミスが発覚・決裁がおりるまでの時間を考慮せず書類を作り、ぎりぎりまで決裁がおりない等、あらゆる失敗を経験した。これらは全て「①スケジュール管理・②大きな流れの把握・③担当業務の現状把握」が出来ていなかったことが原因で、その３点の改善が不可欠だった。

そのため、締切日から逆算して流れを組み立てる（①）のは勿論、一つ一つの細かな業務がどこにどう繋がるのか、という流れを早い段階で理解する（②）ようにした。また可能な限り事前に業務のシミュレーションを行い、時間を要する部分や自分のひっかかるであろうポイントを予め想定するよう心掛けた。また業務の現状把握に関しては、対象者・締切・決裁状況等が一目で把握できるよう管理している（③）。①～③を改善したことで、行き当たりばったりの状況が改善され、漏れのない業務管理ができるようになった。

【取組理由】

何とかして、目先の業務で手いっぱいになる状況を改善したかったため。

【課題目標】

「自分の周囲でなにが起こっているのか」、「誰がどんな仕事をしているのか」に敏感であることを心掛けているので、上司や先輩が必要とする資料等を素早く察知し、適切なものを提示できるようになることが課題でもあり目標。

【参加者と話したい！】

・漏れ、抜けのない業務管理のために、どんなことに気を付けているか。
・仕事をやりやすくするために心がけているのはどんなことか。
・どんな失敗をしたことがあるか。それを改善するために何をしたか。

【発表後の感想】

今回は貴重な発表の機会をいただき、ありがとうございました。初めての参加でしたが、様々な大学・部署の方と気軽に意見を出し合える雰囲気があり、とても話しやすかったです。悩みを共有・共感しあうのはもちろん、様々な方からもアドバイスをいただけて、大変有意義でした。実行委員会の皆様をはじめ、参加者の皆様どうもありがとうございました。

【A】出来ることから効率化　～授業料免除申請書類を例に～

滋賀大学　夏目　慎也さん

【事例紹介概要】

前部署での取り組み。

事務で印刷・封入し、窓口で配布していた授業料免除の申請書類を PDF 化して学生用 Web サイトから申請者各自でダウンロード・印刷してもらう方式に変更した。

その結果、これまで数日かかっていた印刷・封入作業を省略することができ、数日早く募集を開始することができるようになった。また書類の印刷枚数を必要な分だけに減らすことができたため、紙資源の節約につながった。さらに、学生が申請書類を窓口まで取りに来る必要がなくなったため、長期休暇中に留学や帰省などで窓口に来ることが難しい学生も容易に申請書類を入手することができるようになり、学生の利便性向上にも貢献することができた。

【取組理由】

以前より申請書類の一部は申請者が各自でダウンロード・印刷する方式だったが、他の申請書類も同じ方式に変更すれば、事務の省力化・ペーパーレス化・学生の利便性向上につながることに気付いたため。

【課題目標】

授業料免除の結果通知を郵送で行っているのを、学生用 Web サイトで確認できる方式に変え、さらなるペーパーレス化・省力化が出来ないか模索したが、課題が多く、また部署異動となり実現はできなかった。

【参加者と話したい！】

身近なところで何かを変えた、効率化した事例があれば教えていただきたい。

ボトムアップで何かを変える・新しく始めるにあたって踏むべきプロセスについてアドバイスや意見をお聞きしたい。

【発表後の感想】

準備不足で拙い発表でしたが、多くの参加者の方に聞いていただき、また質問もしていただいてとてもありがたかったです。

自分の事例は都合良く条件が整っていたため、少しの気付きと行動だけで結果につながった幸運な例ですが、日頃の業務を見直す上で少しでも参考になりましたらこの上ない幸いです。

私自身も、今の業務を見直し、出来ることから効率化していきたいと思います。

【B】人事評価の結果の適正な活用について

旭川医科大学　柿﨑　啓宏さん

【事例紹介概要】

人事評価の基準が評価者によってマチマチなため、優秀者の選考人数が課毎に大きく偏ってしまっていた。各課長に対し、担当が個別に実情を説明して回ったが、あまり効果が上がらなかった。

【取組理由】

・モチベーションの低下等、職員の士気に好ましくない影響を及ぼすため。いわゆる悪い意味での「公務員的」な横並び・年功序列人事になってしまう。

・課長職以上は、短期間で機関を越える異動があるため、評価システムに慣れたころにいなくなってしまい、なかなか引き継ぎがうまくいかない。人事評価に関して評価者毎に様々な思いがあるため、それを尊重することが大切であった。

【課題目標】

一担当からの説明では十分な理解が得られなかった為、部長等の上席者への説明を通じて事務局組織全体として改善を目指す。年度末の異動時期に、人事評価結果の引き継ぎについての依頼通知を行う。機関毎にやり方が違うことが多いため、新任管理職に、着任時に説明会を開く。

被評価者についても、人事評価の意義が曖昧なまま実施していては、本来の狙った効果が得られないため、新規採用者を中心に、人事担当者からレクチャーを行う。（従前は各課の課長任せな面があった。）

【参加者と話したい！】

・自分の大学において、人事評価の結果が具体的にどのように運用されているか知っているか？（本学では被評価者向けに人事評価マニュアルが配布されているが、周囲の若手職員に聞いてみると、ほとんど内容を知らず、漠然と評価を受けていることが多かった。）

・過去に評価結果の活用に関して疑問を感じたことはあるか？

・賞与等の給与処遇以外に、人事評価の結果が使われているか？（叱咤激励や表彰等。）

【発表後の感想】

あまり一般的なテーマではなかったため、それほど多くの方の訪問はないと思っていましたが、想定以上の方にお越しいただき、うれしく思っています。ありがとうございます。時間の多くを発表者の語りで使ってしまい、一方通行になってしまったのが反省点です。

目標の立て方や自己評価の書き方についての質問を複数いただき、若手職員も相応に人事評価に関心を持っていることが確認できました。今後の業務に生かして行きたいと思います。

【B】外国人研究者のクレーム対応

所属・氏名非公開

【事例紹介概要】

研究室で数年雇用されていた外国人研究者から、突然、前職より給与が低く税金の支払いができないというクレームがあり、様々なクレームに派生し、要望もエスカレートし、長期間にわたり本学の職員や他機関の方を拘束した件。

研究者は度々勤務を欠勤し、勤務時間外に出勤し超勤を要求した。事務長室やその他の事務室にも突然中に入って騒ぐこともあり、会議前の学部長や医師・看護士を待ち伏せし数時間拘束することもあった。また、外部の公的機関に居座って帰らないので迎えに来てほしいという電話も多数あった。

大学の対応として、当該研究者が訪れた際には話を聞き、本人が変更を希望している雇用形態について複数試算し住民税の計算も行った。また、質問事項等をまとめた書類を提出してもらい、受け入れ教員や学部長、学科長、事務方で連携し、対策や回答について事前に相談し、本人も交えての会議を複数回開催した。

【取組理由】

・相手の話も聞いた上で大学側のルールについても理解・納得して頂き、円満に解決したかったため。

【課題目標】

様々なクレーム対応について、職員の拘束時間や負担をなるべく減らし、円満に解決できる方法の探索。

【参加者と話したい！】

・教員・外国人研究者等からのクレーム対応について、皆様の体験談を伺いたいです。

・上手く解決できたクレームの対応法や上記の事例に対するアドバイス等ご教示頂きたいです。

・制度やルールを無視し大学側の話には耳を傾けず、一方的な主張・要求をする研究者にどの程度対応をすべきか意見交換したく存じます。

【発表後の感想】

他大学でのクレームやクレーム対応を拝聴することができ大変勉強になりました。国籍を問わず、対応が難しく長期化しているケースも複数あることがわかりました。

参加者から「このようなケースでは、IC レコーダー（可能であれば動画が望ましい）等で録

音し、顧問弁護士に相談して対応した方がよい。」等貴重なアドバイスを頂くことができました。発表終了後に、「うちの大学も実は・・・」などと声をかけて頂き嬉しかったです。

ブースにお越し下さった皆様ありがとうございました。また、このような貴重な機会を下さりサポートして頂いた実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

【A】大学広報における学生スタッフの導入

小樽商科大学　高山　慎太郎さん

【事例紹介概要】

平成 24 年 5 月から大学広報に係る学生スタッフを募集し、現在 30 名が学生スタッフとして所属しています。週に１度程度ミーティングを行い、本学の公式ブログに掲載する記事の制作、大学広報関連イベントの企画・運営、長期的な広報戦略への意見・提案等を任せています。

【取組理由】

本学の広報担当者は実質１名のみであり、戦略的な広報活動や大規模なイベントの実施はできない状況だったため、これらの改善のために取り組むことを決めました。

【課題目標】

現在、30 名程の学生スタッフを教職員としては私一人で面倒を見ている状態のため、職員側の体制の組織化を図っていきたいと考えています。

【参加者と話したい！】

それぞれの大学で、どのような広報の取り組みをされているかをお聞きしたいです。

特に、効果的だと感じる広報がありましたらお教えください。

【発表後の感想】

今回、事例紹介をさせていただいて、自分自身も学生スタッフの活用について改めて考えなおすきっかけとなり、学生スタッフと一緒に SNS を活用した新しい広報を始めることにしました。また、皆様との交流を通して、これからの活動に大きな刺激をいただきましたことを感謝申し上げます。

【A】見本がない

所属・氏名非公開

【事例紹介概要】

大学職員（特に一般職員）としての業務は、前例を参照しながら行う業務が多い。

マイナンバー制度が開始された際に規則作り、運用方法、システムの導入等を行うこととなった。新しい制度であるため、見本となるものがない中で、色んな本を読んだり、色んな説明会に参加したりしたが、なんとなくイメージは湧くものの、具体的にどうするかには結びつかなかった。

大元の法律、ガイドラインを熟読し、上司や他大学の方と議論しながら、具体化して行く中で、着地点が見えてきたので、ぐるぐる回りながらも、とにかく前に進めることによって解決に向かうこともある。とりあえずやってみることが大事だとわかった。

【取組理由】

どこが、誰が、作るかとなったとき、誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分がやろうと思ったから。

【課題目標】

・外部評価（法人評価・認証評価ではない自発的な組織評価/直近実施は H18 年度）をどのように進めていくか。

・大学を取り巻く状況が厳しくなる中、見本がない、前例がない、制度や法律すらないようなことを具体化して進めていかなければならない中で何ができるか。

【参加者と話したい！】

・各大学（各自）が直面している（直面していた）、見本がない、前例がないような事例とそれに対する取組について。

・各自が直面している（直面していた）困難だと感じている（感じていた）事例とそれに対する取組について。

・各大学の組織評価に対する取組について。

【発表後の感想】

色んな方の意見が聞けて参考になりました。

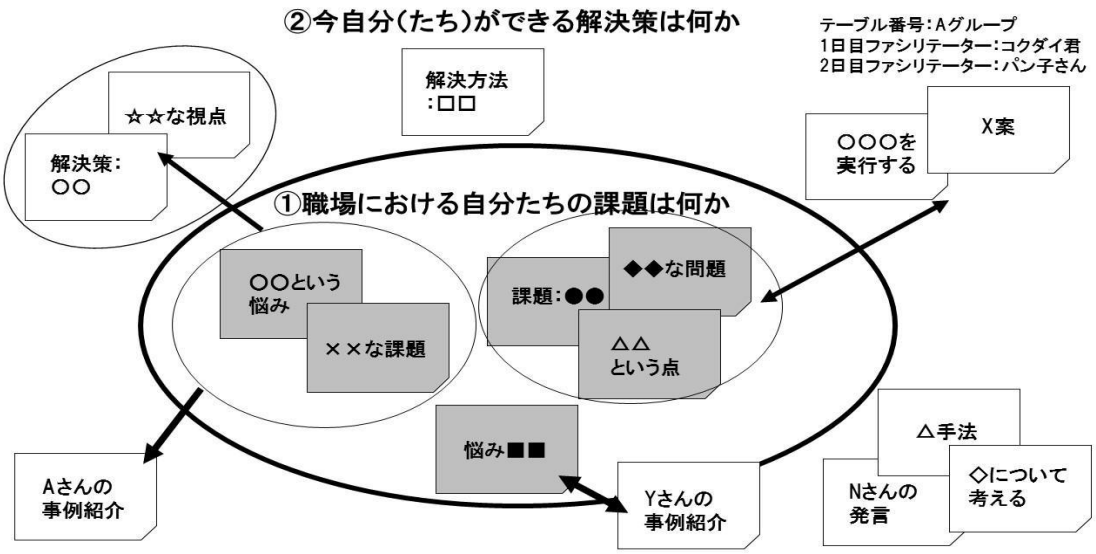
＜ワールドカフェ＞

事前課題や分科会Ｉでの気づきを基に「職場における自分たちの課題は何か」「今自分（たち）ができることは何か」というテーマについて、複数のファシリテーター（※各ワールドカフェで進行役をしていただく方を指します。）の進行のもと、参加者が自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的として行いました。

ワールドカフェは、以下４つの手順で行いました。

１．自己紹介及び課題・現状の共有

簡単な自己紹介と、事前に用意しておいた第 12 回コクダイパンワークシートに基づきながら「①職場における自分たちの課題は何か」「②今自分（たち）ができる解決策は何か」について、自身の業務での悩みやプライベートなことなどを付箋に書き出して発表しました。悩みや課題を書き出し、言葉に出してアウトプットすることで、新たな気づきをグループで共有しました。



２．トーキングタイム

次に「事例紹介の話を聞いて気づいたこと」や「他の人の課題を聞いて、アドバイスできること」、「最近の悩み・課題」等をグループ内で意見を出し合い、カフェのような雰囲気でお菓子を食べながら、新たに出てきた課題や悩み、良いアイデアや新しい解決策等を付箋に分けて書き、模造紙にまとめていきました。

３．テーブル移動・トーキングタイム

ファシリテーター以外の方は、異なるテーブルへ移動し、各テーブルでメンバーが確定次第、

ファシリテーターの方は、最初のグループでどのような話し合いをしたのか模造紙を使って説明をしてもらいました。ファシリテーター以外のメンバーは、前のグループで話し合ったことを頭の中で整理しつつ、「前のグループで出てきた解決策」や「事例紹介で参考になった話」、「模造紙に書かれている課題を見て、またはファシリテーターの話を聞いてアドバイスできること」等について、グループで意見交換し、模造紙にまとめていく作業を引き続き行いました。

ファシリテーターを務める機会は一般職員の普段の業務では少なく、慣れない方もいらっしゃったかと思いますが、グループ全体でファシリテーターの方をサポートしている姿もあり、ファシリテーターも、参加者も、全員が発信をすることで、グループで解決策を考える一体感やライブ感を感じていただけたのではないかと思います。

４．総まとめ

ここでは分科会Ⅱの総まとめ及び分科会Ⅲへのステップアップとして、自身の課題や悩みを振り返った上で、新しい手がかりや解決策を発見していただくことを目的としていました。これまでのグループで聞いた内容を整理し、新しいと思った視点や考え方をグループ内で発表を行いました。

参加者からは「慣れないワークで時間配分や模造紙の使い方が難しかった」「最初のグループに戻ってフィードバックをしたかった」等の意見もあり、タイムスケジュールや、自分の課題に対するフィードバックの方法に課題を残す形となりました。

一方で、「他大学も同じ悩みがあることが分かり、同じ方向で解決策を考えることができた」「悩みが可視化されて繋がっていく様子がわかり、解決へのプロセスがたてやすかった」等、多くの感想が寄せられ、今後、参加者の業務向上が期待できるグループワークとなりました。

2-4. 分科会Ⅲ

分科会Ⅲでは、第 12 回コクダイパン会議の総まとめとして、分科会Ⅰ・Ⅱの内容を活かしながら解決策のブラッシュアップを行いました。最終的にグループディスカッションの内容もふまえた上で、自身の課題について新しい解決策を提案することを目標としました。

(1) ワークシートの記入

事前に考えてきた課題に対して、分科会Ⅰ・Ⅱで得た内容を元に、解決策の再考を行いました。個人で黙々とワークシートに記入する皆様の姿が見られ、自分の課題と改めて向き合う参加者の皆様の姿が印象的でした。

(2)個人ワークシェアタイム／ディスカッション・各個人解決策ブラッシュアップタイム

各グループ内で 1 名ずつ自分が考えた解決策概要について共有を行った後、各メンバーがそれぞれ発表した解決策について、ブラッシュアップを行うべく、じっくりとディスカッションが行われました。様々な大学・部署から集まったメンバーでグループが構成されていたため、話し手は各々が持ち寄った問題の背景や、前提となる部署の特性、また参加者の経歴などを丁寧に説明し、聞き手からは積極的に質問しながら進められました。各人が分科会Ⅰ・Ⅱで仕入れた視点、アイデアも共有し合いながら、時間を追う毎に、議論が活発化してゆき、白熱した議論とともに会場は熱気を帯びていきました。

(3)まとめワーク

最後に、本分科会で行われた議論をもとに、自分自身の課題への解決策について、新しい解決策やそのヒント、今後実行するには自分自身がどのような行動を起こすか、などをワークシートに落とし込んでいくためのワークを行いました。ディスカッションが大変盛り上がったために、まとめの時間が短くなってしまったものの、ワークシートの完成に向けて集中して取り組まれる様子が見られました。また、ワークの最中には前日のアナログ SNS での完成物を再度確認する姿も見られ、多角的な視点から自分自身の課題についてじっくり再考する良い機会となりました。

2-5. アナログ SNS

1 日目の主なプログラムも終了し、いよいよ初日のクロージング全体会となりました。改めて各分科会の振り返りを行い、参加者からの感想を発表頂きました。その後、懇親会・2 日目の集合時間等について司会から説明があった後、コクダイパン会議初の試みとなるアナログＳＮＳが始まりました。

まず企画の趣旨説明として、複雑な課題や前例のないタスク等に対して、他大学・他機関の職員同士で意見や解決策を出し合い、今後の繋がりを見つけるという目的が共有されました。そして、「全員でお悩みを解決する」という目標のもと、全員起立して企画がスタートしました。

最初に、参加者は 6 つのテーブルに分かれます。それぞれのテーブルには、コクダイパン会議の参加申し込み時に提出した課題や悩みをカテゴライズして記載した内容が模造紙「タイムライン」として設置されており、まずは各自でそれらに対する共感のメッセージ、解決策、アドバイスをペンで書き入れていきます。

各タイムラインは参加者から提出された課題の傾向から 6 つのテーマに分かれており、「学生対応」「業務特化」「仕事術①」「仕事術②」「キャリア」「大学組織」に分類されます。参加者は 10 分間の間に、1 人 2 案以上書き込みを行います。書く内容は必ずしも正解である必要はない為、最初はなかなかペンも進まない参加者も多くみられましたが、徐々に書き込みが増え、それぞれの抱える課題に対して多くのコメントが樹形図のように寄せられました。

10 分経過後、残りの約 20 分間はフリートークとなり、それぞれ自分の課題や聞きたい話題のテーブルに集まり、意見交換を行いました。コメントには必ず自身の所属機関名と名前を記載頂いていたので、直接アドバイスをくれた人により詳細を聞くことができ、より深く解決策を掘り下げるきっかけになったという感想もありました。

企画自体は約 30 分間と短かったものの、自分の課題に対して複数のアドバイスが得られたり、樹形図からみんなの発想が繋がっていく所が面白かったという意見もあり、様々なものの見方や考え方を得られた人も多かったのではないかと思います。一方、紙面の見にくさや会場の狭さの他、課題を提出したのがかなり前だった為、どれが自分の悩みかわからなくなってしまっていた等、稼働面での不備も多くみられました。

企画後、タイムラインの模造紙は懇親会会場と、翌日の分科会Ⅲの際にも引き続き掲示されました。各課題への解決策だけでなく、参加した職員の悩みの傾向やアドバイスの集まり具合からも見えてくるものもあり、参加者全員のアナログな集合知が新しい解決策を生み出すきっかけとなってくれることを期待します。

2-6. 全体会（クロージング）

分科会Ⅲを終え、山口大学構内で各自屋外パンランチを楽しんだあと、2 日間にわたる第 12 回コクダイパン会議を締めくくる、最後の全体会（クロージング）を迎えました。

1 日目に今回の会議のスタートを切った全体会の会場に再度集結した参加者のみなさんの表情は、これまでの分科会を通して様々な学びや気づきを得たという充実感に満ちており、周囲の人々と和やかに談笑する姿が多くみられました。

クロージング全体会では、まず、2 日間にわたる会議での収穫を、数名に発表していただきました。会議に参加してみての気付きはもちろんのこと、今後の大学職員生活における所信表明もあり、参加者のみなさんが様々な収穫を得られた様子が感じ取れました。

続いて、実行委員長の温品　翔太（山口大学）より総括として実行委員の言葉とし、2 日間を振り返りました。その後、参加者全員がお互いへの感謝、今後の健闘を祈り、参加者全員による参加者全員のための拍手をもって、第 12 回国立大学一般職員会議は閉会しました。

参加者集合写真

コラム 3．懇親会

初日のプログラムが全て終了し、ついに待望の懇親会の時間となりました。山口大学の食堂ボーノの一角には、山口大学生活協同組合様のご協力により、山口県を代表するふくからや瓦そばが並び、見た目も大変豪華な会場となっておりました。

明治維新 150 年にあわせ、司会の 2 人が坂本竜馬、高杉晋作に扮する中、実行委員長による乾杯の発声で懇親会がスタートしました。

分科会Ｉで一緒にワークをしたグループを 2 つにまとめて配置していた為、参加者同士でその日の振り返りや情報交換等もスムーズに進み、同じ職員同士和やかな雰囲気で進んでいました。また、会場のパーテーションに直前のアナログＳＮＳ企画で使用したタイムラインが掲示され、改めて自分の課題にどんなコメントが付いたのかを見ながら、会話が弾んでいる様子も多く見られました。

今回は毎年恒例の企画である各機関のグッズ紹介に加え、それらのグッズを景品として、それぞれの機関にちなんだクイズ大会を実施しました。グッズやクイズは事前に募集をしていましたが、当日飛び入りの参加も含めると、グッズ紹介が 14 機関、クイズが 12 機関と盛りだくさんな内容となりました。グッズの内訳は、大学で作られているお酒やジャム、お菓子等の食べ物から、ぬいぐるみや文具、Ｔシャツ等、それぞれ魅力に富んだものばかりでした。グッズと併せて各大学紹介にも熱が入り、クイズ大会のヒントを聞き漏らさないようにと参加者も熱心に聞き入っていました。

グッズ紹介終了後、いよいよグッズ争奪クイズ大会が始まりました。クイズはヒントをいくつも出さないとわからない超難問から、完全に早いもの勝ちのような簡単な問題まで多岐に渡りました。例えば全学をあげて実施するボランティアの内容や、大学内でしか通じない言葉、機関オリジナルソングの歌詞の一部分等、一筋縄ではいかないものが多く、各所で悲喜こもごもな光景が見られました。最後まで白熱したままクイズ大会は大盛況に終わりました。

参加者の皆様からいただいたアンケートの回答でも概ね好評だった懇親会でしたが、あっという間に終了の時間となり、翌日の 2 日目に向けて懇親会は解散となりました。

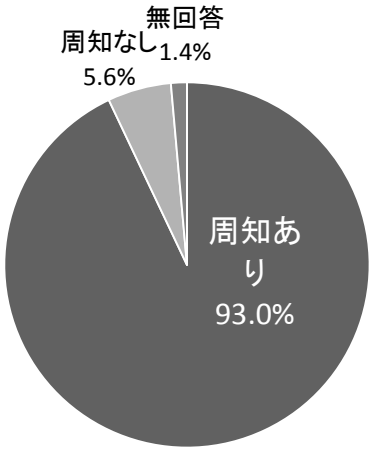
３．アンケート結果

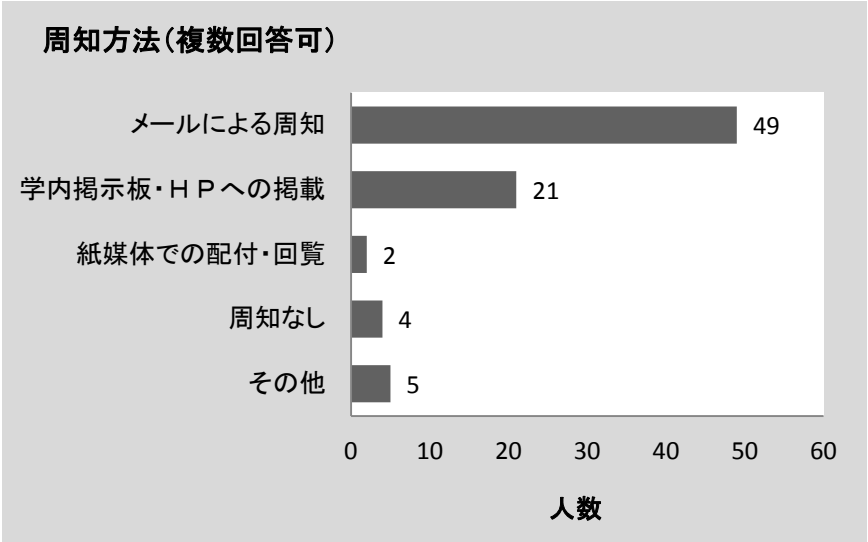
72 名の出席者のうち 71 名から回答をいただきました（回答率約 99%）。ここではその集計結果について報告します。

１．会議に出席するにあたって

１－１.所属機関における，コクダイパン会議開催の周知状況（複数回答可）

周知の有無



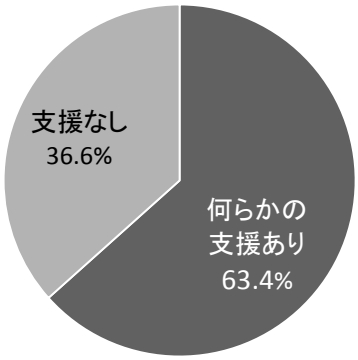


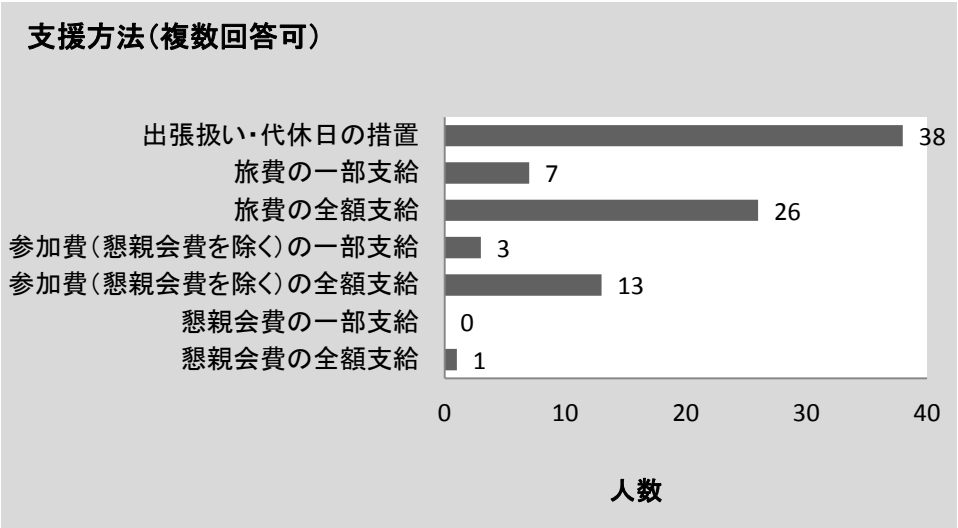
その他：

課長からの打診／研修一覧への掲載／実行委員のため／グループウェアでの周知／口コミ

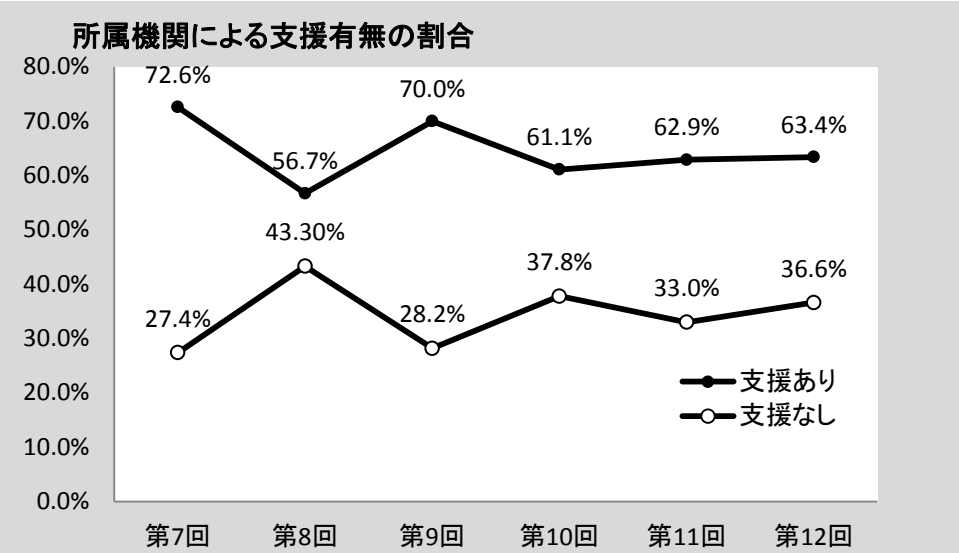
１－２．所属機関におけるコクダイパン会議参加への支援状況（複数回答可）

支援の有無



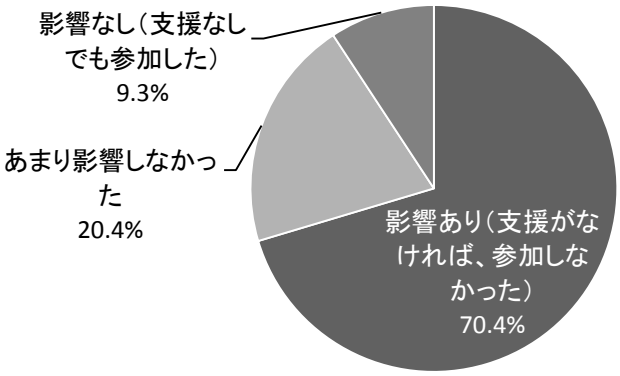


【参考資料】

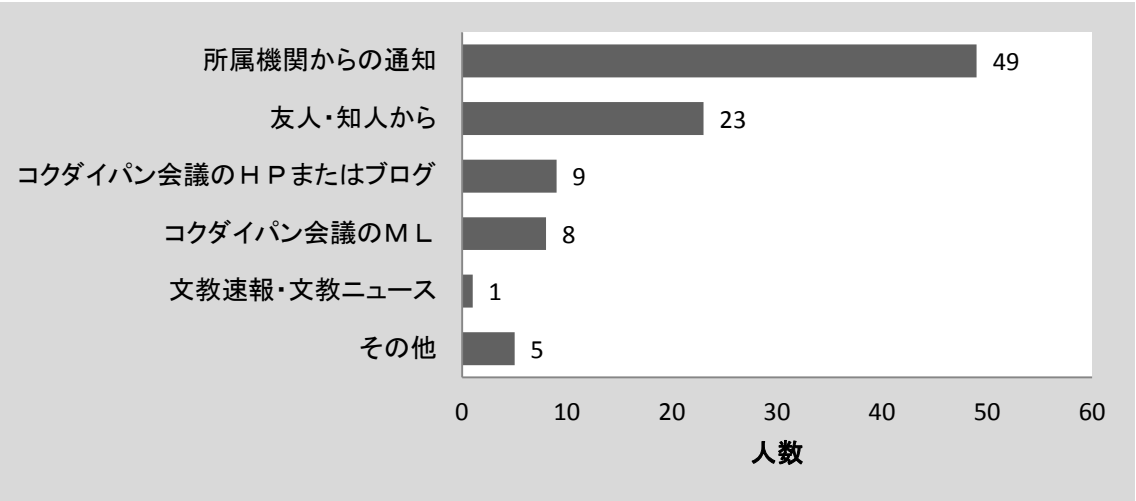


※母数はアンケート回答数であり，無回答者等がいるため合計値が 100%にならない場合があります。

１－３．支援によるコクダイパン会議参加意向への影響（支援ありと回答した参加者のみ）

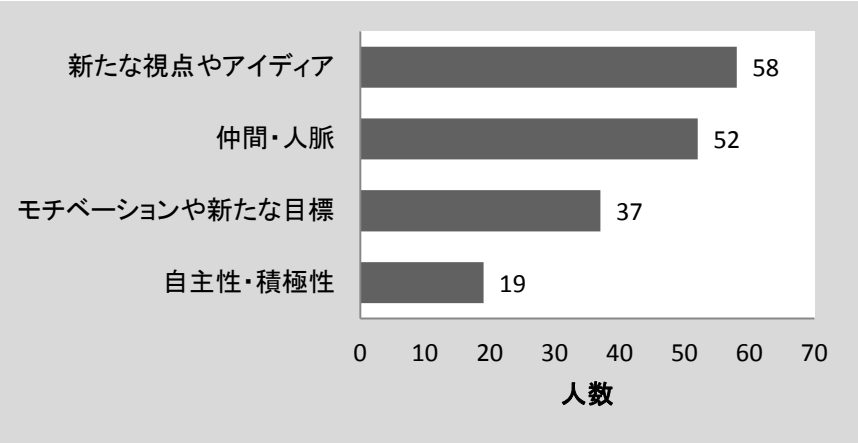


１－４．第 12 回コクダイパン会議を知った情報源（複数回答可）

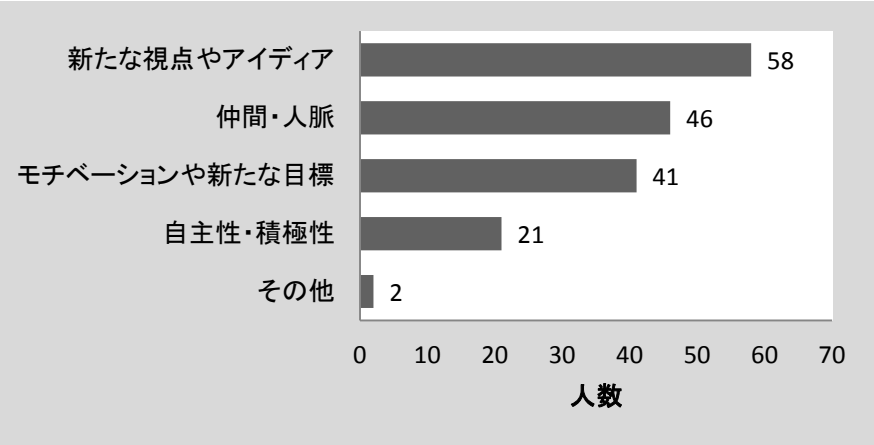


その他：上司／職員の先輩／関係者からの勧誘／昨年度参加したから／実行委員のため

１－５．コクダイパン会議に参加することによって得たい・身につけたいもの（複数回答可）

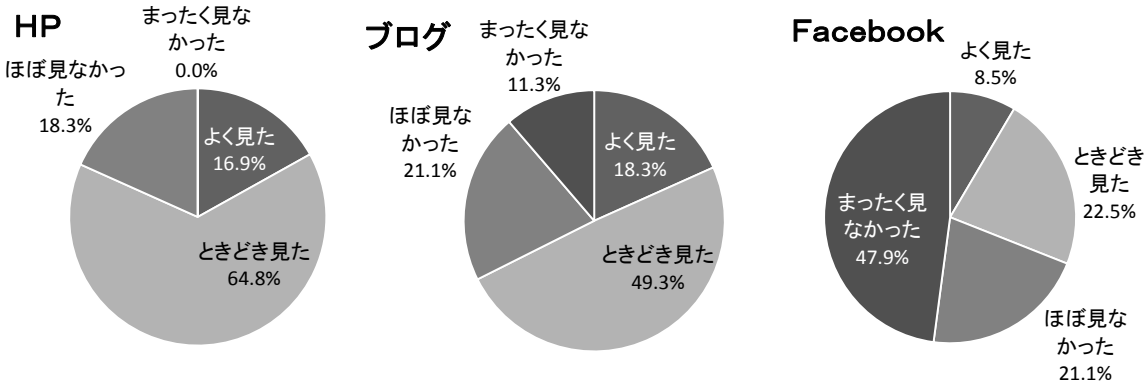


１－６．コクダイパン会議に参加することによって得られた・身につけることができたもの（複数回答可）

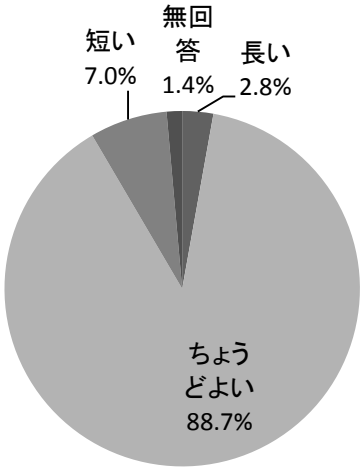


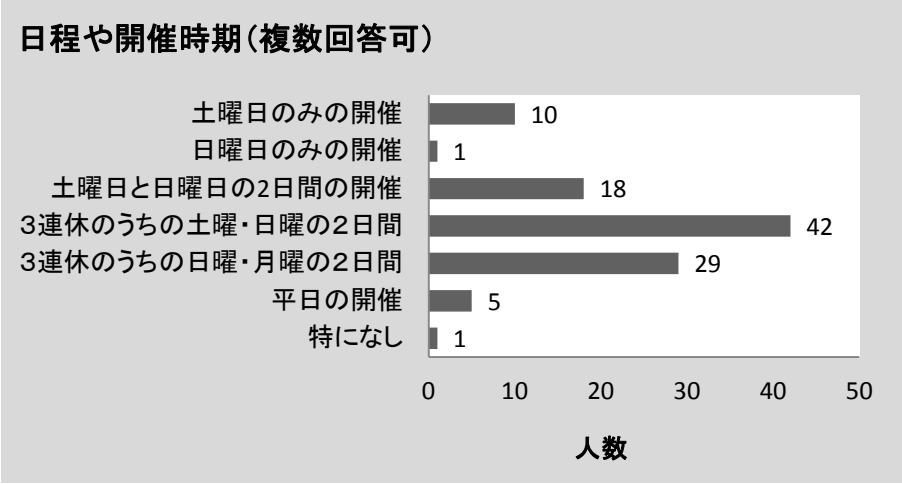
２．会議全体について

２－１．広報媒体（HP，ブログ，Facebook）の閲覧状況について

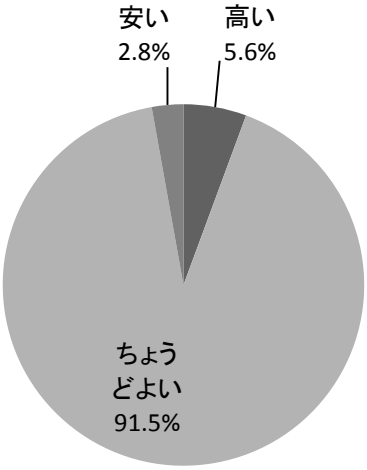


２－２．会議日程（スケジュール）について

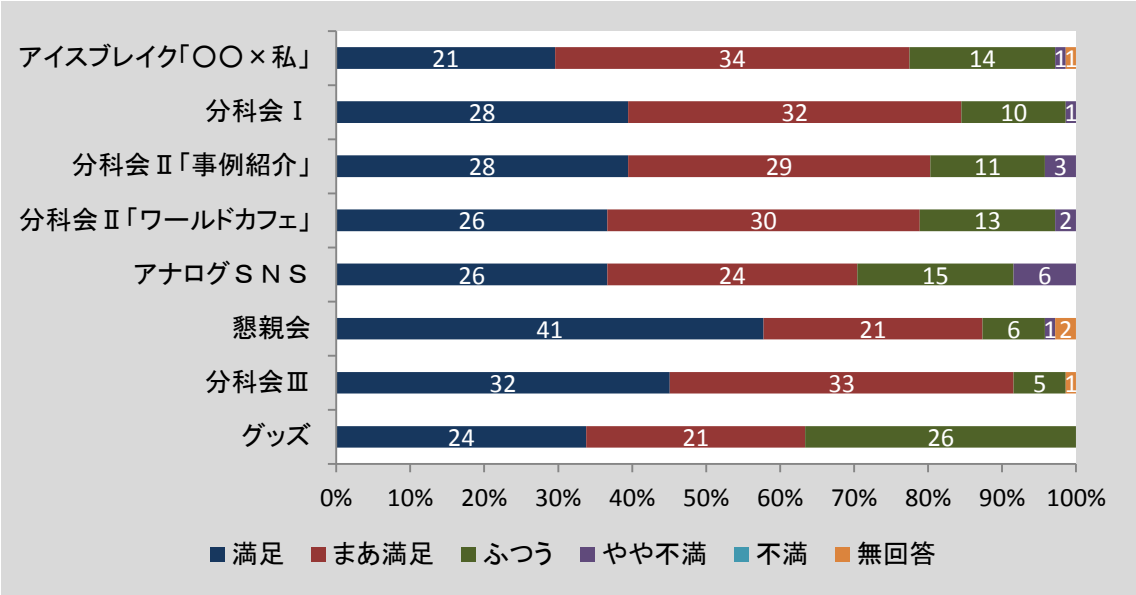




２－３．参加費について



２－４．会議の満足度



３．今後について

３－１．今後実施してほしい・取り上げてほしい企画やテーマ

・副業

・同じ系統(学生支援、財務など)のみの集まりが欲しいです。

・モチベーション、職員サークルについて

・プレゼン能力の向上

・大学のこれからの運営について

・個人の悩みに特化する企画と、大学全体について考える企画とが別にあればそれぞれについて深まるのかな、と思いました（時間的に足りなさそうですが……。）

・国立大学とはどうあるべきか、など大学全体に共通する事柄へのブレインストーミングなど

・SD アワード、好事例集の作成→将来は政策提言

・AI 時代と大学職員について

・地域連携

・入庁時期別グループワーク、入庁時期が長い人が浅い人へアドバイスするようなグループワーク、出向経験など異色な経験談が聞ける場

・教員とのコミュニケーション、事務職員のモチベーション

・座学的な企画、業務簡易体験ブース等

・キャリアプランの作成

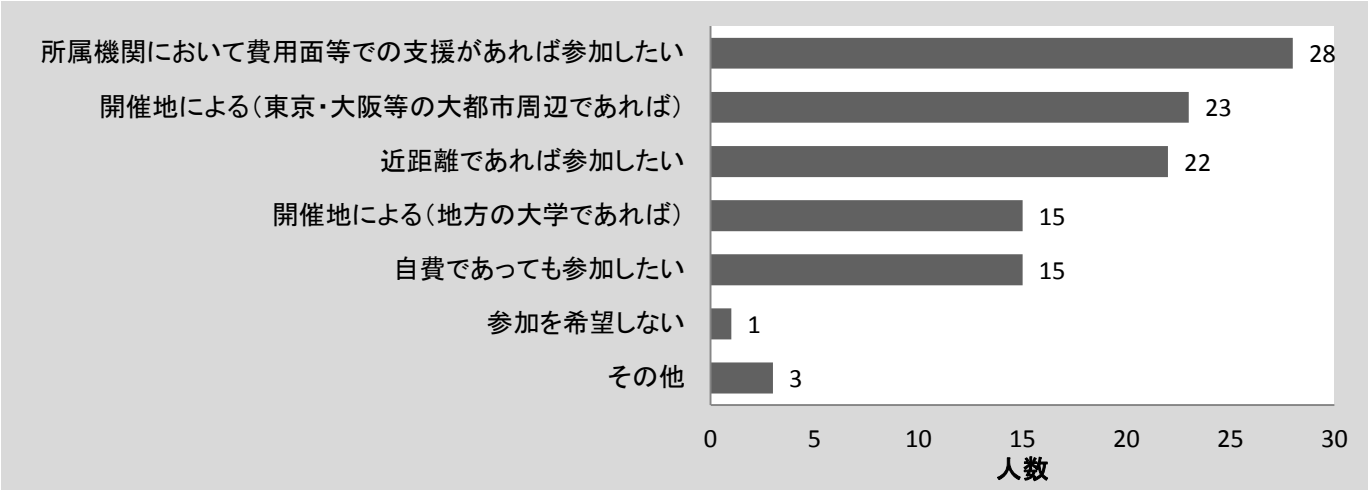
・せっかく、全国各地から参加者がきているので、もっと各大学のことを知ることのできる企画があるとよいと思いました。

・人間関係の悩み

３－２．次回の開催地希望

エリア	地域	人数	具体的記載
東日本	北海道	6	北海道（5），北見（1）
	東北	2	東北（2）
	関東・甲信越	2	首都圏（1），関東近郊（1）
	東京	1	東京（1）
	東海・北陸	7	中部（2），東海（1），岐阜（1），名古屋（1），金沢（1），北陸（1）
		18	
西日本	近畿	3	関西（1），京都（1），大阪（1）
	中国・四国	0	
	九州	3	九州（3）
	沖縄	18	沖縄（10），琉球大学（8）
		24	
その他		3	有名観光地以外（1），特になし（2）

３－３．今後の参加意向（複数回答可）



その他：今後検討したい／繁忙期ではない時期なら参加しやすい／知り合いが行くなら行くかも

4. 終わりに　～謝辞～

第 12 回コクダイパン会議は、運営に多大なるご尽力をいただきました、会場校である会場サポーターをはじめとした山口大学の皆様、事例紹介者、分科会進行役などの皆々様のおかげをもちまして、特段大きなトラブルに見舞われることもなく、無事終了することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、参加者や実行委員に対し有形無形の支援をしてくださっている各所属機関の皆様、ご家族の方のご理解、ご支援のいずれが欠けても、コクダイパン会議の成功はありませんでした。改めまして、関係する皆様に御礼申し上げます。

昨今、同一労働同一賃金や働き方改革が叫ばれる中で、国立大学のあり方も大きな転換期を迎えているように思います。それに伴い、一般職員に求められる仕事も今後より一層大きく変化していくことでしょう。前例を踏襲するだけでは対応できないことも多々増えていきます。今回の会議では、こうした状況の中で、パンの一人ひとりが危機感を持ち、パン自らが様々な視点を取り入れながら柔軟に解決策を考え、実際に行動する「行動できるアイデアパーソン」になることを目標としました。今回のコクダイパン会議が、何か一つでも、新たな視点から課題について考えるきっかけとなりましたら、実行委員一同幸いです。

「行動できるアイデアパーソン」の“行動できる”には、今回のコクダイパンを、ただ参加しただけで終わるのではなく、持ち帰ったものを少しずつでも実行に移してほしい、という想いも込めています。仲間でありライバルであるたくさんのパンとの出会いは、きっと皆様にとって素晴らしい刺激になったと思います。コクダイパン会議をきっかけに、全国の国立大学がより活発に、競争しながら、かつ高めあっていくことに繋がればと願っています。

コクダイパン会議発足から現在にかけて、大学を取り巻く環境はかなり大きく変化してきました。コクダイパン会議のあり方も、新たな視点や考え方を取り入れながら、変化していくべきだと思います。今回いただいたアンケートやご意見を参考に、今後より一層の充実を図るとともに、国立大学等の活性化に繋がるような会議にしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回のコクダイパン会議で出会った皆様の益々のご活躍を祈念し、簡単ではありますが謝辞とさせていただきます。

第 12 回国立大学一般職員会議実行委員 一同

コラム 4. 第 12 回コクダイパン会議の作り方

ここで、第 12 回実行委員会始動から会議本番までを振り返ってみましょう！

«3 月»　第 12 回実行委員会メンバー決定！第 1 回ミーティングに向けて始動！

«5 月»　第 1 回ミーティング@神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

第 12 回実行委員全員で初顔合わせ。引継ぎのため第 11 回実行委員も数名参加しました。お互いに初対面というメンバーも多く、最初は緊張気味でしたが、議論は大いに盛り上がり、このミーティングで第 12 回の運営の方針、企画の大枠が固まりました。

«第 1 回ミーティング終了～参加者募集開始まで»

・参加者募集に向けて企画詳細、実施要項の作成に全力投球

«7 月»　参加者募集開始！

«8 月»　第 2 回ミーティング@山口大学

会場の下見や企画のロールプレイングを実施し、この時点で企画詳細はほぼ決定。参加者にとって分かりにくいことはないか、ねらいの達成のために更に工夫できることはないかなど最終段階。

«9 月～会議直前»第 2 回ミーティングのロールプレイングで出た課題への対応策を決定したり、当日配布する資料を作成したり、前日準備～片づけまでの段取りを決定したり、準備も大詰め。

«10 月»事前準備のため、実行委員は前日入り。サポーターさんのご協力のもと、会場設営や最終準備を行いました。一部の委員は台風の影響で新幹線の運転見合わせに見舞われるも、夜には無事集合。

当日までの間で実際に顔を合わせているのは四角で囲んだ 2 回（会議終了後の反省会を含めても 3 回）のみです。普段は、LINE や無料のクラウドサービスを駆使して議論や作業を進めていました。業務外の限られた時間のなかでの企画・運営のため、いかに効率よく進めるかを試行錯誤しつつも、各自が楽しみながら走ってきました。互いに刺激しあう仲間ができたこと、そして参加者のみなさんと第 12 回コクダイパン会議を作りあげられたことは何にも代えがたいものでした。

■DATE

2018年１０月７日（日）
13：30～18：30（13：00受付）
１０月８日（月・祝）
9：20～13：15

■PLACE

国立大学法人山口大学
吉田キャンパス

■INFORMATION

■参加申込方法（いずれかの方法でお申し込みください）

①申込フォームによる申し込み(推奨)
［http://bit.ly/2tJKe1M］から、必要事項を明記のうえお申し込みください。

②申込用紙による申し込み
公式ウェブサイトから参加申込用紙をダウンロードし、必要事項を明記のうえ［info@kokudaipan.info］までお送りください。

■参加者募集期間
７月２日（月）～７月２０日（金）まで。実施要項など、詳細はウェブサイト［http://kokudaipan.info/］にてご確認ください。

KOKUDAIPANKAIGI

第１２回コクダイパン会議

Design Our Work ～あなたのパンはどんな味？～

主催：国立大学一般職員会議実行委員会　　問合せ：info@kokudaipan.info

第12回　国立大学一般職員会議

“Design Our Work ～あなたのパンはどんな味？～”

実　施　要　項

1. 目的・概要

法人化後の平成19年7月15日、国立大学の将来に危機感を抱いた全国の一般職員有志により、国立大学の将来像や国立大学が直面する課題を議論し、具体的方策を見出していく自発的な活動が行われました。これが現在まで続いている「国立大学一般職員会議」の基礎となっています。国立大学一般職員会議では、今後の国立大学法人を担う私たち一般職員（係長級以上を除く職員）が、全国各地より自発的に集まり、現在直面している様々な課題や、これから求められる国立大学職員像などについて全国の仲間とともに考えていきます。

職歴や担当業務が異なる全国の一般職員との議論や交流を通じて、様々な視点から課題解決に向けたアプローチや具体的な解決方法等を模索することで、明日からの自分自身が大学職員として少しでも成長することができる“きっかけ”を得ることができればと思います。

本会議は、参加者一人ひとりが今後の国立大学で活躍できるよう、自分自身において必要な資質を考え、培い、行動していくための一助となるような自己研鑽の機会となること、また、参加者相互の協力や意見・情報交換のための人的ネットワークの構築・拡大を目的としています。

2. 主催

国立大学一般職員会議実行委員会（以下、実行委員会とする。）

〔実行委員：9名〕

新井　翼（山口大学/文部科学省）、今城　佳奈子（島根大学）、大澤　明梨（静岡大学）、酒井　直美（京都大学）、重松　隆寛（山口大学）、温品　翔太（山口大学）、藤井　直迪（神戸大学）、南　彩夏（京都工芸繊維大学）、渡邊はるか（国際日本文化研究センター）

※ 実行委員会は、以上の国立大学法人等一般職員有志による自発的な組織です。

3. 日時・会場

〔日時〕

1日目：平成30年10月7日（日）13：30～18：00（予定）

2日目：平成30年10月8日（月・祝） 9：20 ～ 13：15（予定）

※ 1日目の会議終了後に懇親会を行います。

※ 2日目の昼食は実行委員会で準備します。（パンと飲み物を予定しています。）

〔会場〕

国立大学法人 山口大学 吉田キャンパス

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

※受付及び全体会場会会場 人文学部大講義室

〇会場配置図:http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/13/68.html

〇交通案内:http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/13/616.html

＝宇部空港からバスでお越しの方へ＝

バスで70分

山口宇部空港新山口駅行きバス乗り場 → 宇部市営バス(特急)37分 → JR新山口駅バス停(終点) → 防長バス平川経由30分 → 山口大学前バス停 → 徒歩3分 → 吉田キャンパス

＝JR新山口駅からバスでお越しの方へ＝

バスで33分(防長バス平川経由)

JR新山口駅3番バス乗り場(在来線側) → 防長バス平川経由30分 → 山口大学前バス停 → 徒歩3分 → 吉田キャンパス

※他のルートもありますが乗り換えが必要です。

＝JR新山口駅から電車でお越しの方へ＝

在来線＋徒歩で44分(普通列車)

在来線＋徒歩で35分(山口ライナー)※料金同額

JR新山口駅(始点)→JR山口線上り　各駅停車19分 → JR湯田温泉駅 → 徒歩25分 → 吉田キャンパス

JR新山口駅(始点) → JR山口線上り　直行10分 → JR湯田温泉駅 → 徒歩25分 → 吉田キャンパス

〇徒歩ルート地図:

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/library/user_data/upload/Image/access/map_yoshida_walk.jpg

＝お車でお越しの方へ＝

当日は北側の駐車場を開放します。事前に駐車台数を確認するため、申込時にその旨、記載ください。

ただし、駐車場内のトラブル・事故に関しては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

＝宿泊施設の予約について＝

三連休であるため宿泊施設が大変混雑する恐れがございますので、参加者におかれましては可能な限りお早めに予約を行うことを強くお奨めいたします。また、会場校付近には宿泊施設はございませんので、以下を参考に最寄駅付近の宿泊施設をお探しください。

〇最もお奨め　「湯田温泉駅」付近

〇「湯田温泉駅」まで電車で20分以内　「新山口駅」付近

4. 参加対象者

国立大学法人に所属する一般職員

※本会議において、一般職員とは、係員・主任級の職員を意味し、係長級以上は除きます。
※大学共同利用機関法人に所属する方も含みます。
※文部科学省や日本学術振興会など、関係団体へ研修・出向中の方も含みます。
※放送大学に所属する方も含みます。

5. 主な内容

国立大学が法人化してから10年余が経過し、体制だけでなく周囲の環境も大きく変化し、昨今では各大学の経営統合が話題になる等、今までにない新しい局面を迎えています。大学の運営資金は頭打ちの状況が続く中で、働き方改革等により、一人ひとりの仕事の内容や質がより一層問われるようになりました。特に多くの仕事を任される若手職員は、様々なタスクや課題を抱えながら仕事に取り組む一方、「自大学の中に事例やノウハウがない。」「過去と同じやり方では通用しない。」等、つまずきや行き詰まりを感じる場面が増えてきているように思います。

このような状況の中で私たちは、忙しさに流されるまま日々の業務をこなしていくのではなく、新たな視点を持って、現在ある仕事やこれからの仕事について一度立ち止まって考えていく必要があるのではないでしょうか。

第12回では、「Design Our Work ～あなたのパンはどんな味？～」をテーマにコクダイパン会議を進めていきます。自身のみならず、上司や同僚、ステークホルダーと、仕事で関わりを持つあらゆる人が共に主体となって、様々な情報を吸収し、多くの人の想いや考えを"Design"することによって、課題に広い視野を持って取り組むことができる、新しい解決策を提案できる人材になることを目指します。他分野の職員からの事例紹介や参加者同士での意見交換を通して、今まで自身が知らなかった多様な考え方、働き方を知り、実際に大学に持ち帰って今後の仕事に活かすことができる"行動するアイデアパーソン"になってもらうことを目標とします。そのためには、会議を通して、常に発信し続けることが重要です。聞くだけでなく、積極的に話すことで自分の思考を整理し、さらにそれを共有することで、「全員で成長する」というライブ感をぜひ味わってください。

〇1日目

1. 分科会Ⅰ

少人数のグループに分かれ、自分や大学として今ある課題や悩みを視覚化し、グループ化することで、客観的に現状を把握します。また、その悩みに対する解決策を様々な発想や視点から自由に考えることで、分科会Ⅱ、Ⅲにつながる柔軟な思考の土台をつくります。

2. 分科会Ⅱ①

ブース形式の事例紹介並びにワールドカフェ形式のグループワークを行います。事例紹介ごとに設けられた発表者と聴講者との質疑応答や、ワールドカフェを通した活発な意見交換を通して、分科会Ⅰで視覚化された仕事の課題や悩みを精査し、解決策を提案するための手がかりをつかみ取る機会とします。

3. 全体会

コクダイパン参加者同士で、課題や悩みを共有しあい、相互に解決を依頼、または解決しあうワークを実施します。どんな人と繋がりたいか、何を知りたいか、逆にどんな情報を自ら提供できるかをあらかじめ吸い上げ、当日全員に見える形にして自由に意見交換を行うことによって、アナログなコミュニケーションを通じて「全員が課題を解決させる」というゴールを目指します。

〇2日目

4. 分科会Ⅱ②

1日目に引き続き、ブース形式での事例紹介を行います。具体的な事例紹介を通じて、参加者が直面している課題に対しての新しい解決策を見つけるための一助とします。

5. 分科会Ⅲ

分科会Ⅰで考えた内容、分科会Ⅱで知り得た事例をもとに、参加者が今業務で直面している課題について再考します。2日間で知り得た情報をもとに、各々が個人ワークで自分自身で解決策を考えた後、グループ内で全員が発表し、それらを共有します。解決策が今までにない「新しい」ものになっているか、なっていなければどんな所に新しい視点を入れられるか、グループ内で話し合い、新しい解決策を提案できる人材を目指します。

6.　全体会
2日間の議論を振り返り、具体的な業務の改善案や今まで知らなかった新しい考え方について何名かの参加者に発表してもらいます。

6. 参加申込

国立大学一般職員会議ホームページ（http://kokudaipan.info/）の「APPLY」ページより、（1）または（2）のいずれかの方法でお申し込みください。

（1）【推奨】参加申込フォームから必要事項を記入のうえお申し込みください。
申込フォームURL：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdyJ3st9QQLJp8VmN3O9RQwo3ETyUBVLe8utt68TmqCaO8xXQ/viewform

（2）機関でまとめて申込をされる場合や上記申込フォームを利用できない方は、「参加申込用紙（Excel）」をダウンロードのうえ、必要事項を記入してinfo@kokudaipan.infoまでメールにてお送りください。

申込の受付期間は、**平成30年7月2日（月）～7月20日(金）18：00**です。

申込にあたって疑問点などがございましたら、実行委員会（info@kokudaipan.info）までお問合せください。

7. 参加費（事前振込）

〔会 議 費〕1,500円（1日目のみ参加の方に限り、1,000円）
〔懇親会費〕3,000円（参加希望者のみ）
※ 会議費は、資料の印刷費、グッズの作成費等、運営のための必要経費です。
※ 会議費には、2日目の昼食代500円を含んでいます。

8. 参加費の納入期間及び方法

〔納入期間〕平成30年7月2日（月）～7月27日（金）
〔納入方法〕下記の手順で納入してください。

1. 上記6. 参加申込に従い、「参加申込フォーム」または「参加申込用紙」に必要事項を記入のうえ送信する。
2. 実行委員会から送付されるIDが記載された申込受理メールを確認する。
3. 申込受理メールから1週間以内に下記の振替口座に参加費を振り込む。

※ 参加申し込み後1週間を過ぎても申込受理メールが届かない場合は、実行委員会（info@kokudaipan.info）までお問合せください。
※ 振込の際は、通信欄にIDを記載し、お名前と併せて所属機関名をご記入ください（通信欄がない場合は、お名前及び所属機関と併せてIDを記入してください。）。
※ 振込後に受領した「振替払込請求書兼受領書」または「ご利用明細票（振替受付票）」などは念のため保管しておくようお願いします。

＝注意事項＝

・参加費納入にかかる手数料については、参加者負担でお願いします。
・参加申込を受理した場合であっても、参加費の振込がない、または、振り込まれた参加費が不足していた場合、参加申込を取消しさせていただく場合があります。
・**振り込まれた参加費（懇親会費も含む。）については、実行委員会の責めに帰すべき事由がある場合を除き返付いたしませんので、ご了承ください**。
・会議費・懇親会費ともに事前振込をお願いします。

・振込完了後のキャンセル及び当日の会議欠席の場合、会議終了後1週間以内に実行委員会（info@kokudaipan.info）に連絡をいただければ、「着払い」にて当日配布した資料及びグッズを送付します。

＝参加費払込口座＝

●ゆうちょ銀行（窓口・ＡＴＭ）から振込の場合

口座記号・口座番号	**02200 - 8 - 137671**
加入者名	**国立大学一般職員会議実行委員会**

●ゆうちょ銀行以外からの振込の場合

銀行名	**ゆうちょ銀行**
金融機関コード	**9900**
店番	**229**
預金種目	**当座**
店名	**二二九（ニニキユウ）店**
口座番号	**0137671**
口座名称	**国立大学一般職員会議実行委員会** **ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸｲｯﾊﾟﾝｼｮｸｲﾝｶｲｷﾞｼﾞｯｺｳｲｲﾝｶｲ**

9. 今後のお知らせ

＝重要＝

本会議に関する連絡はすべてメールにより行い、参加申込の際に入力頂いたメールアドレス宛てに送信します。（第12回コクダイパン会議参加者限定のメーリングリストを開設し、それにより連絡を行う予定です。）また、資料等の事前送付のため、メールにデータファイル（圧縮されたファイルを含む。）を添付することがあります。

つきましては、申込の際は確実に受信できる個人アドレスを入力していただくとともに、可能な限り添付ファイルのあるメールであっても受信できるアドレスを登録するよう、ご協力願います。

また、国立大学一般職員会議ホームページ及び実行委員によるスタッフブログ等を開設しています。今回の会議に関する情報のほか、過去の会議に関する情報も掲載されていますので、是非ご覧ください。

公式ウェブサイト：http://kokudaipan.info/
BLOG：http://blog.kokudaipan.info/
Twitter：https://twitter.com/kokudaipan
Facebook：https://www.facebook.com/kokudaipan

10. 実行委員会の連絡先

〔メールアドレス〕info@kokudaipan.info
※ 国立大学一般職員会議に関するご意見、ご質問など、お気軽にお寄せください。
※ 電話やFAX等によるお問い合わせには対応できませんので、ご了承ください。

第12回　国立大学一般職員会議　日程表（予定）

【１日目】

時刻	進　　行	内　　容	会場
13:00	開場・受付		人文学部大講義室
13:30 14:00	全体会	オープニング 会議全体の趣旨説明 １日目の趣旨説明 アイスブレイク	同上
14:15 15:15	分科会Ⅰ （60分）	グループワーク	人文学部・理学部 各講義室
15:30 17:05	分科会Ⅱ① （95分）	参加者による事例紹介 ワールドカフェ	同上
17:20 18:00	全体会 （40分）	全体ワーク(相互課題解決) １日目の総括 ２日目に向けて	人文学部大講義室
18:10 20:30	懇親会		食堂(ボーノ)

【２日目】

時刻	進　　行	内　　容	会場
9:00	開場・受付		人文学部大講義室
9:20 9:30	全体会	２日目のスケジュール確認 ２日目の趣旨説明	同上
9:40 10:40	分科会Ⅱ② （60分）	事例紹介 グループディスカッション	人文学部・理学部 各講義室

10:50 12:00	分科会Ⅲ （70分）	個人ワーク及び グループディスカッション	人文学部・理学部 各講義室
12:00 13:00	昼食	（晴天時：屋外ランチ）	
13:00 13:15	全体会	参加者による発表 ２日間の総括	人文学部大講義室
13:15 13:30	解散・写真撮影		

第１２回コクダイパン会議
Design Our Work

～あなたのパンはどんな味？～

２０１８年１０月７日（日）・８日（月・祝）
会場：山口大学　吉田キャンパス

コクダイパン会議　基本ルール

１．相手の意見を尊重する。
２．すべての参加者が議論に参加できるように気を配る。
３．愚痴だけで終わらない。問題の解決策や将来像の実現方法を考える。

配布資料一覧：

１　表紙・配布資料一覧
２　日程表
３　キャンパスマップ・使用会場概略図
４　参加者名簿（ID 順）
５　アイスブレイク実施要領
６　アイスブレイク座席表
７　分科会Ⅰ実施要領
８　分科会Ⅰグループ一覧
９　分科会Ⅱ実施要領
１０　分科会Ⅱ配置図
１１　分科会Ⅱ事例概要一覧
１２　分科会Ⅱワールドカフェ・グループ一覧
１３　分科会Ⅲ実施要領
１４　分科会Ⅲ配置図
１５　分科会Ⅲグループ一覧
１６　アナログ SNS 実施要領
１７　懇親会配置図・企画内容
１８　パンスポットマップ
別刷　ワークシート

当日の緊急連絡先：

アンケートはこちらからご回答ください。
（読み取れない等、不備があれば実行委員へ）

第１２回　国立大学一般職員会議　日程表

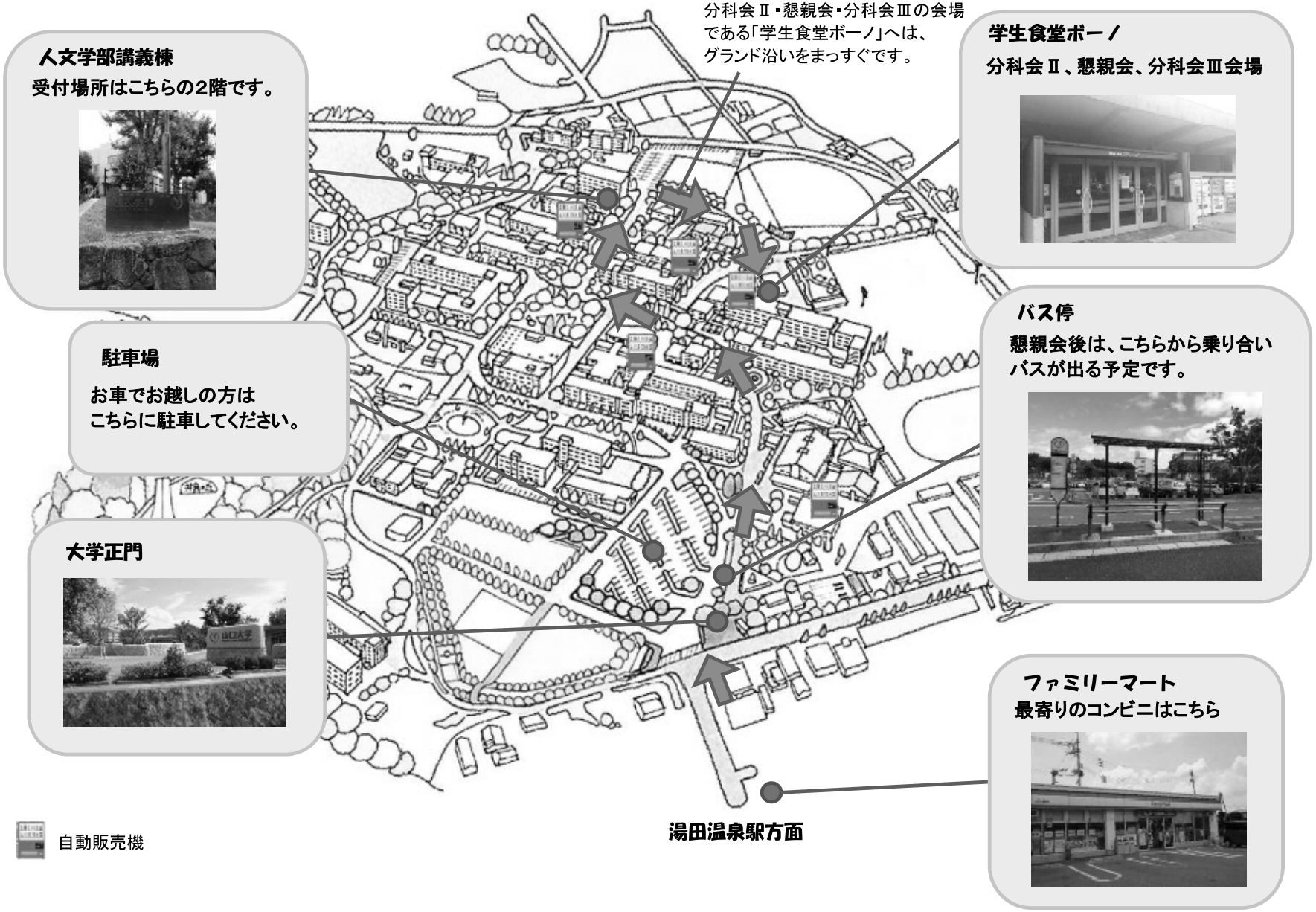
【１日目】

時刻	進　　行	内　　容	会場
13:00	開場・受付		人文学部大講義室
13:30 14:00	全体会 （30 分）	オープニング 会議全体の趣旨説明 １日目の趣旨説明 アイスブレイク	同上
14:15 15:15	分科会Ⅰ （60 分）	グループワーク	人文学部・理学部 各講義室
15:30 17:00	分科会Ⅱ① （90 分）	事例紹介 ワールドカフェ	食堂(ボーノ)
17:20 18:00	全体会 （40 分）	１日目の総括 ２日目に向けて アナログ SNS	食堂(ボーノ)
18:10 20:30	懇親会		食堂(ボーノ)

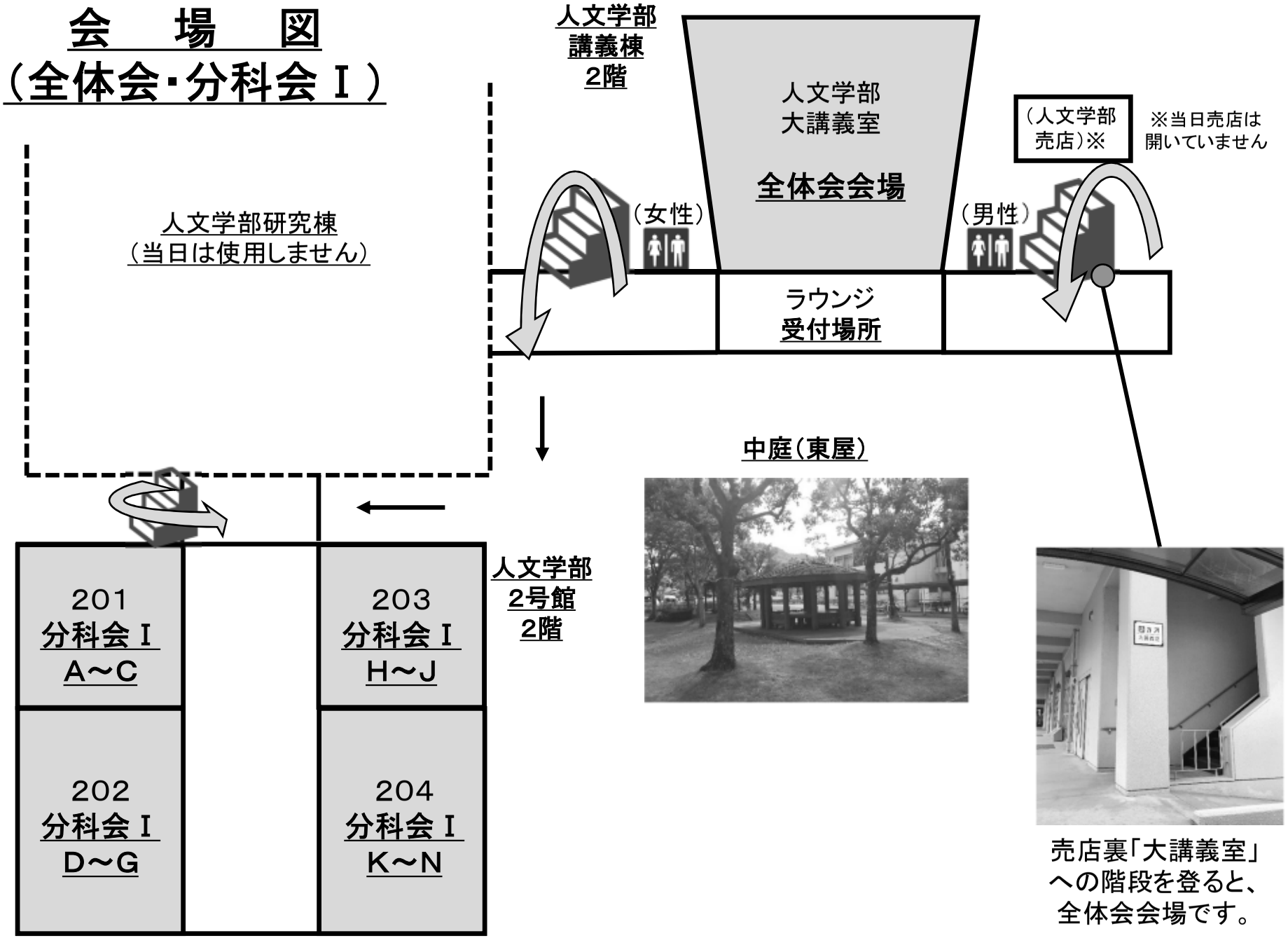
【２日目】

時刻	進　　行	内　　容	会場
9:00	開場・受付		人文学部大講義室
9:20 9:30	全体会 （10 分）	２日目のスケジュール確認 ２日目の趣旨説明	同上
9:40 10:40	分科会Ⅱ② （60 分）	事例紹介 ワールドカフェ	食堂(ボーノ)
10:50 12:00	分科会Ⅲ （70 分）	個人ワーク グループディスカッション	食堂(ボーノ)
12:00 13:00	昼食 （60 分）	（晴天時： 屋外ランチ）	
13:00 13:15	全体会 （15 分）	全体写真撮影 参加者による発表 ２日間の総括	人文学部大講義室

山口大学吉田キャンパス内マップ



会　場　図
（全体会・分科会Ⅰ）



売店裏「大講義室」
への階段を登ると、
全体会会場です。

アイスブレイク「〇〇×私」　実施要領

【平成 30 年 10 月 7 日(日) 13:45～14:00（１５分）】

１．趣旨

コクダイパン会議では多くの方が初対面同士となりますが、そんな参加者同士がより円滑に意見を出し、議論を活発化できるよう、準備運動として簡単なワークを実施します。

肩肘を張らず、まずは自分に関する様々なテーマについて短い時間で考えを整理・発信し、意見交換をすることで、新しい発見や共感を見つけてください。

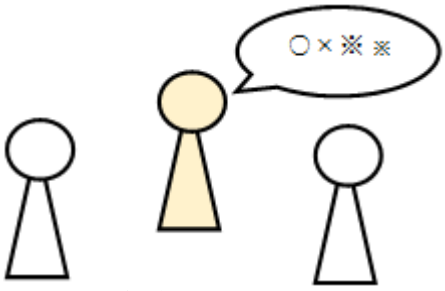
２．進行要領

（1）　実行委員からアイスブレイクの進め方について簡単に説明を行います。

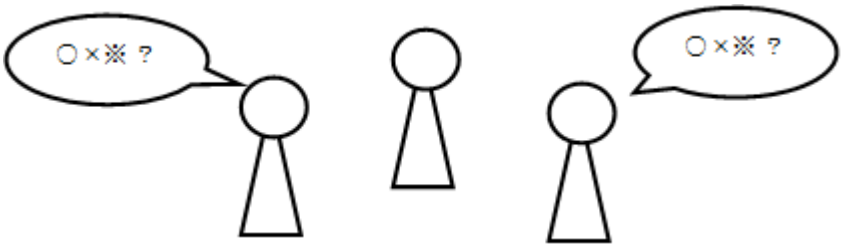
（2）　座席ごとにあらかじめ決められたお題がスライドに表示されますので、そのテーマに沿ったエピソードや意見・考えをまとめてください。話す内容は自由です。（1 分）

［テーマ１］　通勤　　×　私
［テーマ２］　昼休み　×　私
［テーマ３］　休日　　×　私
［テーマ４］　パン　　×　私

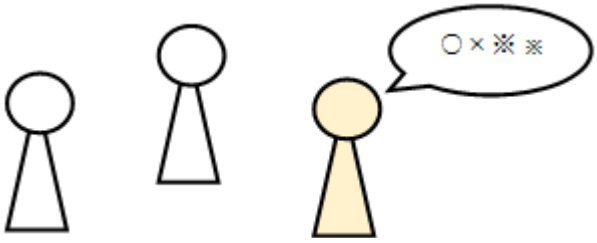
（3）　テーマ１の人からテーマについて自由に話してください。（1 分）



（4）　話し手の<u>右隣の人</u>は、トークについて話し手に何か１つ質問してください。そのとき、質問者はヒーローインタビューをする記者になったつもりで、話し手はインタビューされているヒーローのつもりで、簡潔に回答しましょう。（１つの質問と回答１分以内）



（5）　質問と回答が終わったら、先ほどトークした人の<u>左隣の人</u>が次にトークを行います。（全員のトークが終わるまで、（3）～（5）を繰り返す）



アイスブレイク　座席配置図

【アイスブレイク　平成30年10月7日（日）　13:45～14:00】

〇受付が終わりましたら、ご自身のIDが記載された席に着席してください。（IDは参加者名簿に記載しています。）
〇太枠ごとのグループでアイスブレイクを行います。グループ図は以下の通りです。
〇早めに会場に到着された方は、全体会開始までに、ぜひ名刺交換を含め自己紹介を行いましょう！

出入口　前　出入口

		31	グループA	61	27	グループF	40		24	グループK	56	15	グループP	22			
		72		37	32		53		63		20	5		54			
		29	グループB	44	1	グループG	71		50	グループL	65	62	グループQ	45			
		11		49	19		55		68		7	66		59			
		34	グループC	3	35	グループH	8		9	グループM	70	26	グループR	18			
		51		30	42		75		12		67	60		33			

		2	グループD	52	4	グループI	48		28	グループN	43	25	グループS	47			
		69		57	73		16		23		10	36		74			
		13	グループE	41	58	グループJ	64		76	グループO	38						
		39		46	14		6		21		17						

第 12 回コクダイパン会議　分科会Ⅰ　実施要領

【平成 30 年 10 月７日（土）14:15～15:15（60 分）】

1.趣旨

少人数のグループに分かれ、自分や大学として今ある課題や悩みを共有・視覚化し、カテゴライズすることで、客観的に現状を把握します。また、その悩みに対する解決策を様々な発想や視点から自由に考えることで、分科会Ⅱ、Ⅲにつながる柔軟な思考の土台をつくります。ここでは、色々な角度から対応を考え、柔軟な発想を持つことに重きをおくため、実現可能かどうかにとらわれず、まずは様々な視点から考えることを目標とします。

2.進行要領

＜タイムスケジュール＞

１４：１５～１４：２５（１０分）	０．はじめに
１４：２５～１４：４０（１５分）	１．アイスブレイク・発表
１４：４０～１４：５０（１０分）	２．グループワーク
１４：５０～１５：１５（２５分）	３．個人ワーク・グループ討議

＜詳細＞

０．はじめに（１０分）

所定の班ごとに分かれて着席してください。実行委員から、本分科会の目標・進め方・時間配分・ルールについて説明します。

説明が終わったら、グループごとに、１人１分程度で自己紹介を行ってください。

１．【アイスブレイク】お悩みあるあるフラッシュ　（15 分）

まずは、コクダイパンの皆様が普段から感じている悩みや課題に関する、簡単なゲームを行います。あまり考えすぎずに、頭を柔らかくして取り組んでください。

①大学職員として働くうえで悩んでいること、課題として感じていることを、<u>３分間でできるだけたくさん</u>付箋に書き出してください。できるだけ１人１０個以上書き出せるよう、思いつくままに記入してください。

※些細なことや、自分以外の悩みでも構いません。

【注】

全員同じ色の付箋を使用し、１つの悩みに対して１枚の付箋を使用してください。

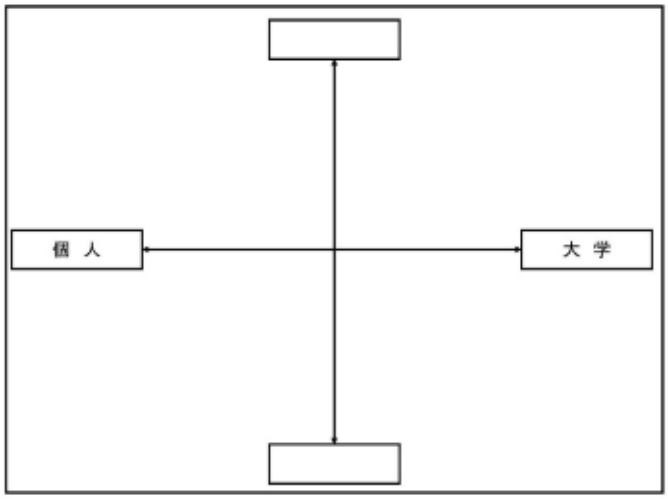
ペンの色を変えるなどし、誰が書いたものかを分かるようにしてください。

②グループ内で発表する順番を決め、１人１つずつ、悩みを発表しながらその悩みの付箋を貼り出してください。発表者以外のメンバーは、発表者の話を聞き、自分が書いた悩みと同じものが発表されたら、発表者の付箋と一緒に貼り出してください。
１つの悩みの発表が終わったら、次の人が発表、１０分間経過するまで繰り返してください。（１０分経過のタイミングで各部屋の実行委員が終了の合図を出します。）

③時間内に発表が終わった場合は最後まで発表された方、全員の発表が終わっていない場合は付箋が一番多く手元に残っていた方は、日ごろから課題意識を持って色々なことを考えられている「お悩みマスター」として、分科会Ⅰのグループの中心として残りの議論の進行をお願いいたします。

２．【グループワーク】悩みのカテゴライズ　（10 分）

①（グループごとに、以下の図のように十字線を引いて模造紙を４分割にし、横線（長辺）の左側に「個人」、右側に「大学」と記入してください。
縦軸には、以下の例示を参考に、対になる言葉をグループで決めて記入してください。例示をそのまま使っても、グループで新しい言葉を考えても構いません。



例　：	社会全体↔大学固有	量的↔質的	肉体的↔精神的	
	人間↔施設	ソフト↔ハード	有機物↔無機物	など

②縦軸が決まったら、悩み発表で使用した付箋を、シートのどのカテゴリになるかを考えながら貼っていきましょう。
※悩みの発表の時間に全て発表しきれなかった付箋も、このタイミングで全てシートに貼ってください。

３－１．【個人ワーク】解決案の作成　（５分）

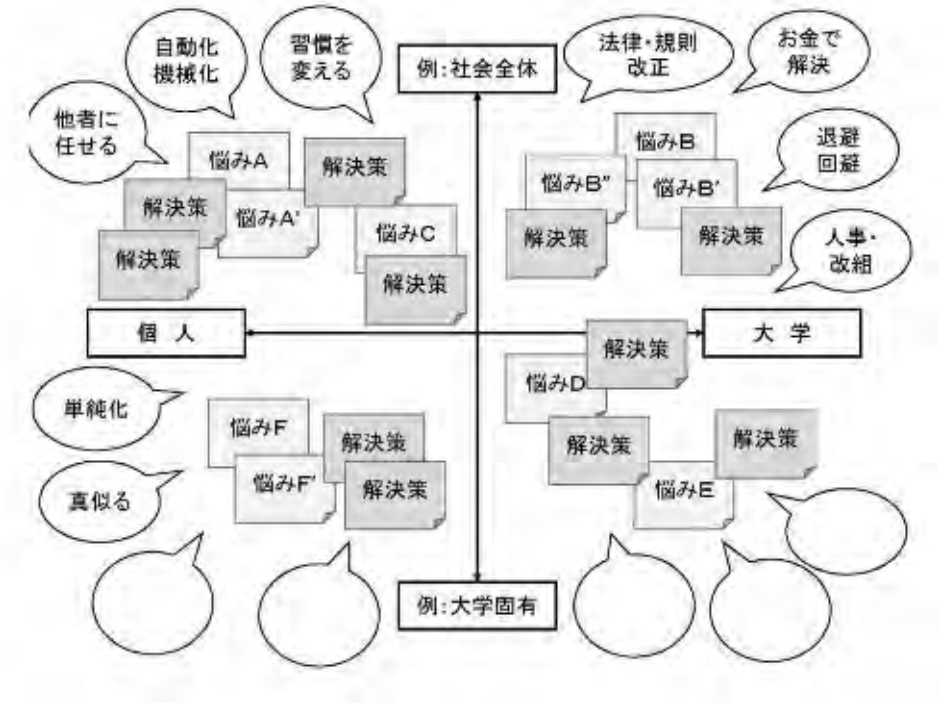
悩みを書き出す際に使用した付箋とは別の色の付箋を使用し、個人ごとに、グループ内で挙がった悩みに対する解決策を記入してください。ここでは、今までなかった色々な角度から対応を考え、柔軟な発想を持つことに重きをおきます。「やってはダメ」なことや「現実的に考えてできない」解決策の提案でも構いません。「地球を滅ぼさなければ」何をしてもＯＫですので、ゲーム感覚で色々な解決策を考えてみましょう。

３－２．解決案の発表（グループ内議論）　（20 分）

記入した解決案について、グループ内で発表を行います。以下の図のように、対応する悩みや課題の付箋の近くに解決案の付箋を貼りながら、個人ワークで考えた解決案を発表していきましょう。

解決案が発言者と被ったり、関連している場合は、そのタイミングで近くに付箋を貼っていきましょう。また、発言を聞いて思いついた新たな解決案は、いつでも追加で記入・発表して構いません。

また、解決策を考えるための「視点」を、図の周囲にいくつか例示していますので、解決策を考える際の参考にしてください。例示してある以外にも、新たな視点を思いついたら、模造紙の周囲に直接記載していきましょう。



第 12 回コクダイパン会議分科会Ⅱ実施要領

【平成 30 年 10 月 7 日(土)15：30～17:00・10 月 8 日(月・祝)9:40～10:40(150 分)】

1．趣旨

ブース形式の事例紹介並びにワールドカフェ形式のグループワークを行います。事例紹介ごとに設けられた発表者と聴講者との質疑応答や、ワールドカフェを通した活発な意見交換を通して、分科会Ⅰで視覚化された仕事の課題や悩みを精査し、解決策を提案するための手がかりをつかみ取る機会とします。

2．進行要領

＜タイムスケジュール＞

【1日目】（90 分）

１５：３０～１５：４５（１５分）	１．事例紹介①：発表・意見交換
１５：４５～１５：５０（5分）	ブース移動
１５：５０～１６：０５（１５分）	２．事例紹介②：発表・意見交換
１６：０５～１６：１５（１０分）	グループ席移動
１６：１５～１６：３５（２０分）	３．ワールドカフェ①
１６：３５～１６：４０（5分）	グループ席移動
１６：４０～１７：００（２０分）	４．ワールドカフェ②

【2日目】（60 分）

９：４０～９：５５（１５分）	５．事例紹介③：発表・意見交換
９：５５～１０：０５（１０分）	グループ席移動
１０：０５～１０：４０（３５分）	６．ワールドカフェ③

■分科会Ⅱの全体要領

１日目は事例紹介を２回実施したのち、ワールドカフェを２回実施します。

２日目は事例紹介を１回実施したのち、ワールドカフェを１回実施します。

聴講者は 2 日間で 3 つの事例を、発表者は 2 つの事例を聴くことができます。次ページ以降の事例一覧及び事例概要を参考に聴きたい事例を選択し、そのブースに移動してください。

今回の事例紹介及びワールドカフェは、発表者の話を聴くことや、ファシリテーターがグループのとりまとめとなることがメインではなく、発表者も、ファシリテーターも、参加者も、全員が発信をすることで、新たな気づきや今後の仕事に活かせる手がかりを得てもらうことが目的です。事例概要に目を通して、当日どのような発信をしようか、あらかじめ考えておきましょう。

＜詳細＞

■事例紹介①～③の要領

発表者の方は、質疑応答の時間も十分に残せるように、テンポよく事例紹介をしてください。

事例によっては、ブースが満席となる場合があります。その際は、近くのブースに迷惑がかからないように、空いている椅子を移動させたり、他に気になっていたブースに移動したり、コクダイパンの和を大事にするような行動をとってください。

事例紹介の移動時間が大変短くなっているため、どのブースを聞きに行きたいか、あらかじめ考えておきましょう。

■ワールドカフェ①～③の要領

《そもそもワールドカフェって？》
ワールドカフェは、参加者が本当に話し合いたいテーマについて、自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的としています。
ワールドカフェでは、各グループの１人がファシリテーター、残りのメンバーが旅人の役割を担います。

最初のワールドカフェが終わり、次のワールドカフェが始まるときは、各テーブルにファシリテーターを残して、残りのメンバーは旅人として他のテーブルに移動し、新しいグループを作り、ファシリテーターの進行の下、新たな対話を重ねます。
（ワールドカフェが始まるごとに、メンバーが入れ替わる様を、こちらの花粉をあちらの花へ運んでいくミツバチに例えて、「他花受粉」と呼ばれています。）

ワールドカフェの良さは、回数を重ねる度に多くの人と様々な意見や考えを交わすことができることにあります。また、通常の会議と異なり、何かしらの結論を出さなければならないわけではなく、リラックスした気分で話をします。

カフェにいる気分で、参加者との会話を楽しみましょう！
参考ウェブサイト：WORLD CAFE.NET　http://world-cafe.net/about/about-04.html

【1 日目】

0. ワールドカフェ①（配布物の確認）

所定の場所に着いたら、机上の配布物に過不足がないか確認してください。
配布物は下記のとおりです。ファシリテーターの方は、腕章の装着をお願いします。
・模造紙　１枚　・付箋　寒色系１種類、暖色系１種類
・マジック　5～10 色（太・細）　・腕章（ファシリテーター分）
・ファシリテーターの進行要領（A4 用紙１枚）

1-1. ワールドカフェ①（自己紹介及び課題・現状の共有）　（5 分）

簡単な自己紹介と、事前に用意しておいた第１２回コクダイパンワークシート（以下「ワークシート」という。）に基づきながら「①職場における自分たちの課題は何か（ワークシート「１．」参照）」「②今自分（たち）ができる解決策は何か（ワークシート「③－１．」参照）」について、１人１分以内で、順番に話していきます。

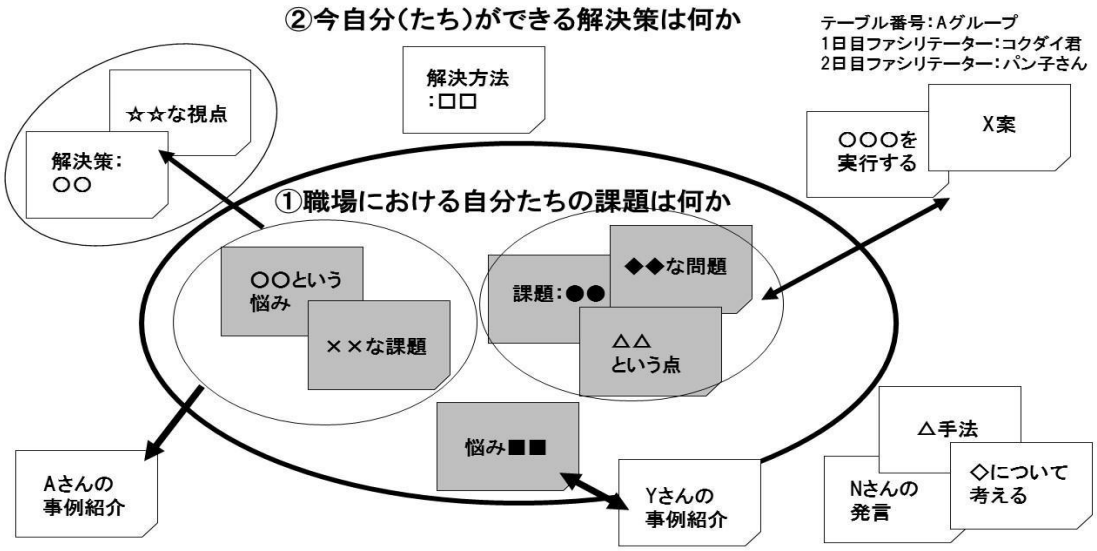
その際、話しながら①は寒色系の付箋、②は暖色系の付箋に書いて、模造紙に貼りつけていきましょう。

話す内容は、自身が今関わっている業務をはじめ、所属する課のことや、課をまたぐ話、大学全体のこと、仕事とプライベート双方のことなど、どんな些細なことでも構いません。「今、自分はこんなことに悩んでいたのか。」と、言葉に出してもらうことで、自分の現状に気づいてもらうことが重要です。

■模造紙の使い方例

右上には、テーブル番号と１日目のファシリテーターと２日目のファシリテーターをする方の氏名の記入をお願いします。

模造紙の使い方は、各グループでおまかせしますが、次のページの例では①の課題から②の解決策へとグループワークが展開されるような配置にしています。



1-2. ワールドカフェ①（トーキングタイム）　（15 分）

全員の話が一通り終わりましたら、「事例紹介の話を聞いて気づいたこと」や「他の人の課題を聞いて、アドバイスできること」、「最近の悩み・課題」等、肩肘はらずに意見を出し合っていきましょう。こちらも 1-1.と同様に、新たに出てきた課題や悩みは寒色系の付箋、良いアイデアや新しい解決策等は暖色系の付箋に書いて、模造紙に貼りつけていきましょう。

ここでは、寒色系（課題・悩み）の付箋が多かった模造紙が、グループで話し合っていく中で様々な情報を吸収し、意見や考えを " Design " することによって、暖色系（新しい解決策）の付箋で彩られていく様子を体感してもらうことが目標です。

1-3. テーブル移動　（5 分）

ファシリテーター以外の方は、1 回目のワールドカフェのテーブルと異なるテーブルへ移動してください。

最初のメンバー同士でなるべく移動先のグループが重ならないように着席しましょう。

2-1. ワールドカフェ②（ファシリテーターによる説明）　（3 分）

各テーブルでメンバーが確定次第、ファシリテーターの方は、最初のグループでどのような話し合いをしたのか模造紙を使って説明をしてください。ファシリテーター以外のメンバーは、前のグループで話し合ったことを頭の中で整理しつつ、しっかりとファシリテーターの話に耳を傾けましょう。

2-2. ワールドカフェ②（トーキングタイム）　（15 分）

ファシリテーターの方からの説明が終わりましたら、「前のグループで出てきた解決策」や「事例紹介で参考になった話」、「模造紙に書かれている課題を見て、またはファシリテーターの話を聞いてアドバイスできること」等について、1-2.と同様、リラックスした気分で意見を出し合っていきましょう。

こちらも寒色系と暖色系の付箋に書いて模造紙に書いていく作業を引き続き行います。

ここでは、最初の時点から多くの人の意見や考えが出ていますので、自分の課題やその課題の解決につながる手がかりは何だろうということを忘れずに、積極的に発言をしていきましょう。

2-3. ワールドカフェ②（2 日目のファシリテーターの決定）　（2 分）

2 日目も引き続きワールドカフェを実施しますので、2-2.で話し合った内容を説明していただくファシリテーターの方を 1 人決定してください。
時間が余りましたら、今日のワーキンググループでどのような話し合いをしたのか、グループの皆さんで情報を整理しておきましょう。

2-4（任意）．２日目のグループの検討　（空き時間＆懇親会時）
ファシリテーター以外の方は、2 日目どのグループでワールドカフェに入るか、検討をしておきましょう。
ファシリテーターの方は、他のグループの模造紙を参考にしつつも、2 日目の冒頭にどのように説明をしようか、構成を考えておきましょう。

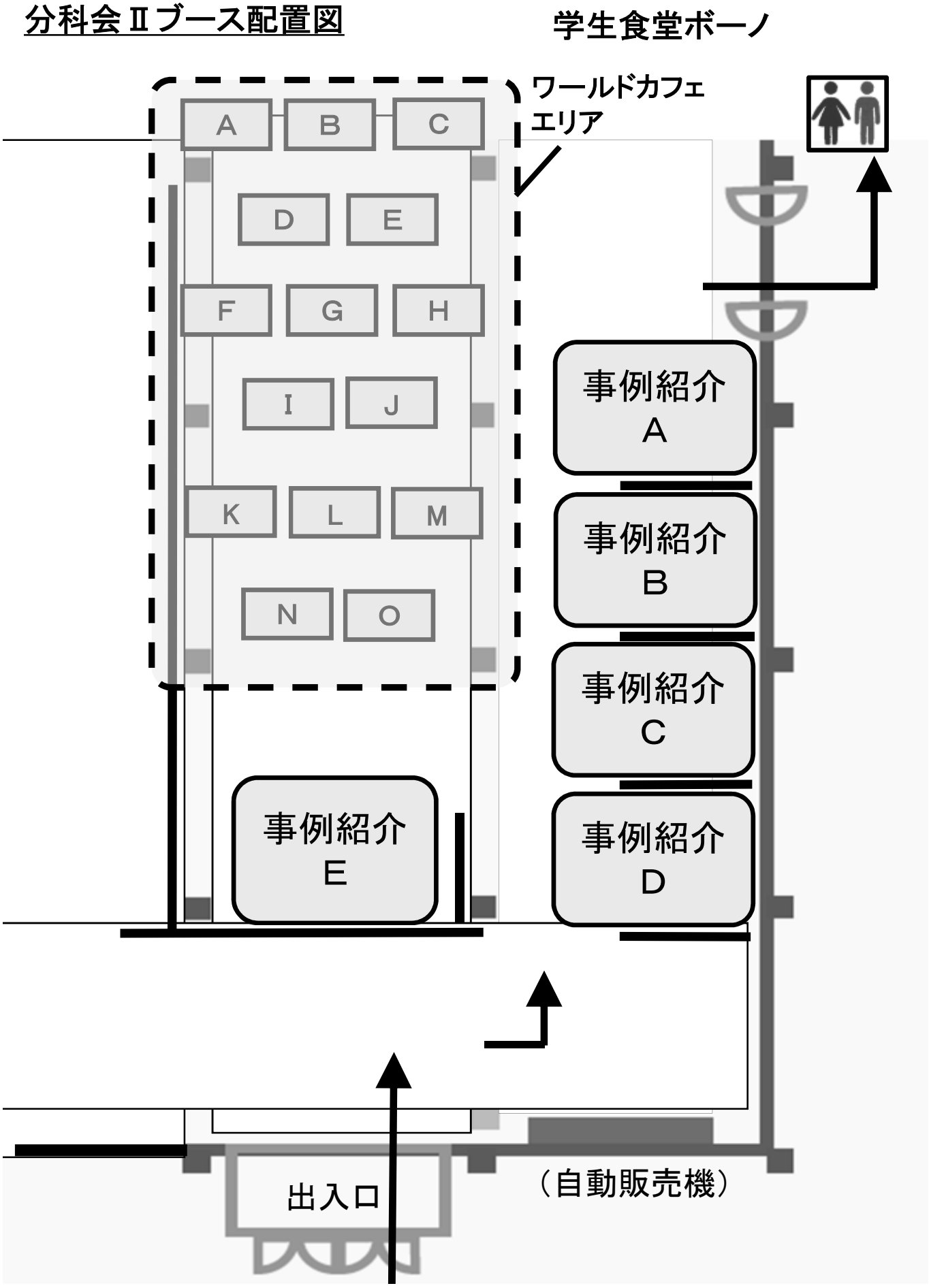
【2 日目】
3-0-1．ワールドカフェ③（2 日目のグループのメンバー決定）
全体会終了後、2-3.でファシリテーターに決定している方は、前日と同じテーブルに着席をお願いします。
ファシリテーター以外の方は、2 回目のワールドカフェとは異なるテーブルに着席をお願いします。
1-3.同様、メンバー同士でなるべく移動先のグループが重ならないように着席すること以外は、特にルールはありませんので、1 回目のワールドカフェのテーブルに戻ることや 1 回目のメンバーと同じテーブルに着席しても構いません。

3-0-2．ワールドカフェ③（配布物の確認）
所定の場所に着いたら、机上の配布物に過不足がないか確認してください。
配布物は下記のとおりです。ファシリテーターの方は、腕章の装着をお願いします。
・模造紙　1 枚　・付箋　寒色系 1 種類、暖色系 1 種類
・マジック　5～10 色（太・細）　・腕章（ファシリテーター分）
・ファシリテーターの進行要領（A4 用紙 1 枚）　・シール（1 種類）

3-1．ワールドカフェ③（ファシリテーターによる説明）　（3 分）
各テーブルでメンバーが着席次第、ファシリテーターの方は、1 日目のグループでどのような話し合いをしたのか模造紙を使って説明をしてください。ファシリテーター以外のメンバーは、前日のグループで話し合ったことを頭の中で思い出ししつつ、しっかりとファシリテーターの話に耳を傾けましょう。

3-2．ワールドカフェ③（トーキングタイム及び総まとめ）　（32 分）
ファシリテーターの方からの説明が終わりましたら、2-2 同様、「昨日のグループで出てきた解決策」や「事例紹介で参考になった話」、「模造紙に書かれている課題を見て、またはファシリテーターの話を聞いてアドバイスできること」等について、意見を出し合っていきましょう。
トーキングタイム後半では、グループ内で「③○○という考え・視点が新しいと思いました！（ワークシート「③－２．」参照）」という発表をしましょう。
発表をする際、各自「新しい！」と思ったものに、シールを貼りつけましょう。
ここでは分科会Ⅲのステップアップ及び分科会Ⅱの総まとめとして、自身の課題や悩みを振り返った上で、どのような新しい手がかりや解決策を見い出すことができるかに少しでも発見していただくことが目的になります。“行動するアイデアパーソン”になるための一歩を踏み出しましょう。

分科会Ⅱブース配置図


学生食堂ボーノ
ワールドカフェ
エリア
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
事例紹介
A
事例紹介
B
事例紹介
C
事例紹介
D
事例紹介
E
出入口
（自動販売機）

第12回コクダイパン会議分科会Ⅱ事例紹介タイトル一覧

事例紹介①（1日目前半）

ブース	所属機関	氏名	事例紹介タイトル
1-A	神戸大学	藤井直迪	【B】継続しなかった勉強会
1-B	岐阜大学	舟橋皓希	【A】業務管理について ～新人係員と係長が１３００の業務をこなすまで～
1-C	宮崎大学	梅北誠太	【A】宮崎大学生向けに就職・キャリアに関する情報を 発信するためのTwitterを企画・運用
1-D	琉球大学	天願茜	【A】コミュニケーション不足解消と残業解消について
1-E	（非公開）		

事例紹介②（1日目後半）

ブース	所属機関	氏名	事例紹介タイトル
2-A	大分大学	和智麻未	【B】教員や他学部との連携について
2-B	京都工芸繊維大学	北井清寛	【A】放射線業務従事者講習の英語用通知文の作成
2-C	（非公開）		
2-D	山口大学	山下貴弘	【A】地域連携をどのように促進するか ―教育プログラムの開発において―
2-E	京都大学	一宮藍子	【A】脱行き当たりばったり！！ 目先のことに振り回されない！

事例紹介③（2日目）

ブース	所属機関	氏名	事例紹介タイトル
3-A	滋賀大学	夏目慎也	【A】出来ることから効率化 ～授業料免除申請書類を例に～
3-B	旭川医科大学	柿﨑啓宏	【B】人事評価の結果の適正な活用について
3-C	（氏名・所属非公開）		【B】外国人研究者のクレーム対応
3-D	小樽商科大学	高山慎太郎	【A】大学広報における学生スタッフの導入
3-E	（氏名・所属非公開）		【A】見本がない

【A】業務上の悩みを解決した方法や改善につながった行動、今後の目標
【B】業務上の上手くいかなかった事例や失敗してしまった行動、今後の課題　に関する事例紹介

第１２回コクダイパン会議　分科会Ⅲ　実施要領

【平成３０年１０月８日（月・祝）　10:50～12:00（70 分）】

１．趣旨

新しい解決策を考えることのできる人材になる、という目的のため、分科会Ⅲでは第 12 回コクダイパン会議の総まとめとして、分科会Ⅰ・Ⅱの内容を活かしながら三段階で解決策のブラッシュアップを行います。

事前に考えてきた課題と解決策に対して、コクダイパン分科会Ⅰ・Ⅱで知り得た事例等をもとに、課題と解決策について個人で再考し、グループ内で発表を行います。その後、グループ内で、それぞれの課題・解決策について話し合い、さらに検討を行います。最終的にグループディスカッションの内容もふまえて、自身の課題について、新しい解決策を提案することを目標とします。

２．進行要領

＜タイムスケジュール＞

１０：５０～１０：５３（3分）	０．オープニング
１０：５３～１０：５８（5分）	１．個人ワーク①
１０：５８～１１：１０（１２分）	２．グループワーク①
１１：１０～１１：５０（４０分）	３．グループワーク②
１１：５０～１１：５８（8分）	４．個人ワーク②
１１：５８～１２：００（2分）	５．クロージング

※話し足りない場合には、昼食時間（１２：００～１３：００）もご活用ください！

＜詳細＞

０．オープニング（3分）

１ 班４名の少人数班に分かれて着席してください。実行委員から、本分科会の目標・進め方・時間配分・ルールについて説明します。

１．個人ワーク①（ワークシートの記入）（５分）

事前に考えてきた課題に対して、分科会Ⅰ・Ⅱで知り得た内容をもとに新しい解決策を個人で再考しましょう。全く新しいものとならなくてもよいですが、最低でもひとつは新しい要素をプラスした解決策を考えることを目標とします。

２．グループワーク①（個人ワークシェアタイム）（１２分）

各グループ内で１名ずつ自分が考えた解決策について発表し（１人３分程度）グループ内で共有してください。特に、今回のコクダイパン会議にて得た内容や気づきを絡めた解決策について発表・共有を行いましょう。

３．グループワーク②（ディスカッション・各個人解決策ブラッシュアップタイム）（４０分）

グループ内において、各メンバーがそれぞれ発表した解決策について、ブラッシュアップを行ってください。（例：A さんが、B さんの立てた解決策に対して、質問：「このような場合はどうする？」「もう少し〇〇を詳しく説明してほしい」、アドバイス：「△△ということを加えたら、もっと□□になるかも」などをコメント。）

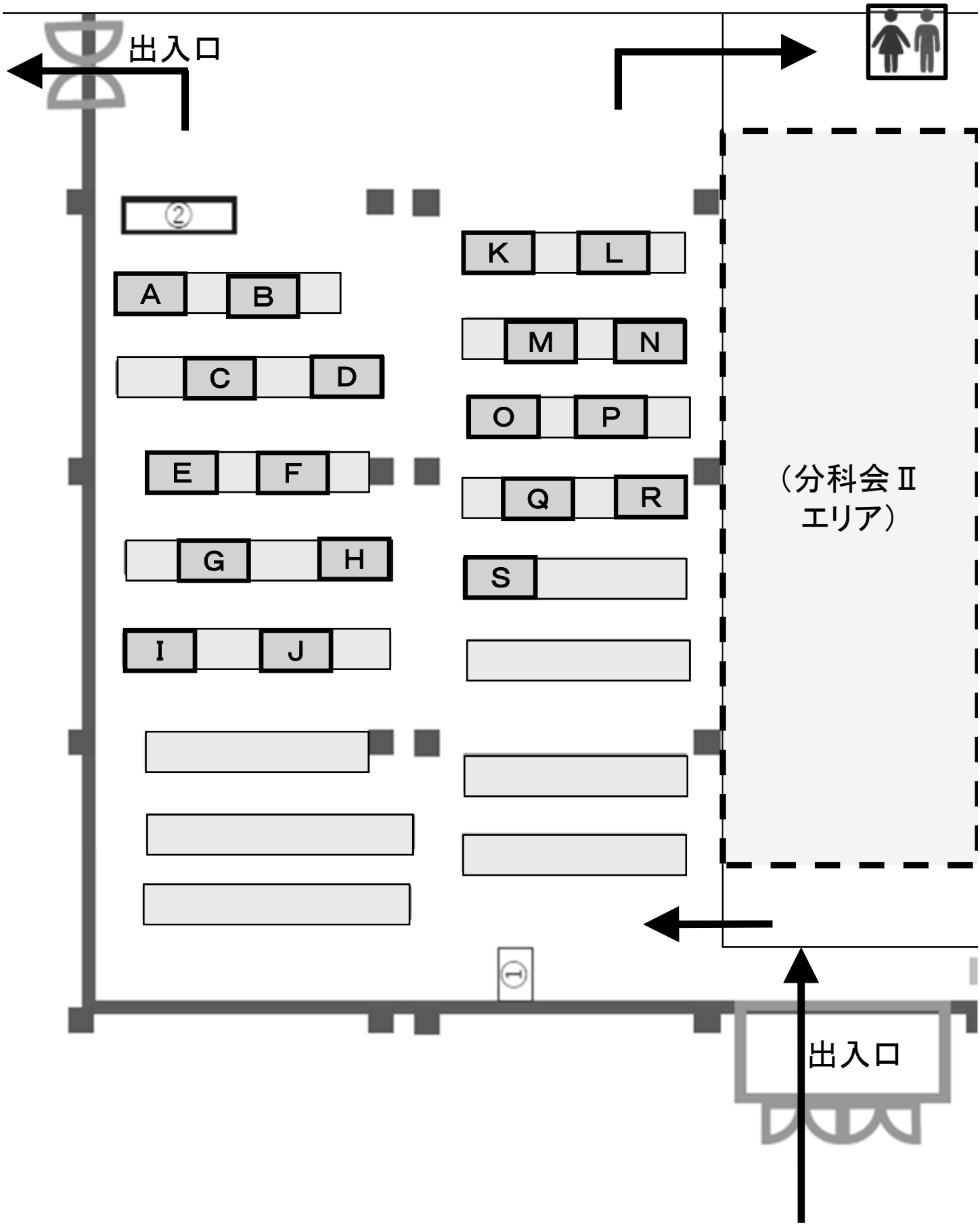
１ 人の課題につき 10 分を目安に、全員の課題について議論ができるように時間配分に気を付けてください。

４．個人ワーク②（再度ワークシートの記入）（８分）

３．で話し合った内容を自分自身が考えた解決策に落とし込み、ワークシートを完成させましょう。本会議を通して、どのような新しい解決策やそのヒントを得ることができたか、またそれを今後実行するにはどのような行動を起こすか、等をワークシートに記入していくことを目標とし、今後自身の機関において本会議で得た解決策を実行するための足がかりとします。

分科会Ⅲ　配置図

学生食堂ボーノ



人力解決！アナログ SNS　実施要領

【 平成 30 年 10 月 7 日(日) 17:30～18:00（30 分）】

１．趣旨

コクダイパン参加者同士で、課題や悩みを共有しあい、相互に解決を依頼、または解決しあうワークを実施します。どんな人と繋がりたいか、何を知りたいか、逆にどんな情報を自ら提供できるかをあらかじめ吸い上げ、当日全員に見える形にして自由に意見交換を行うことによって、アナログなコミュニケーションを通じて「全員が課題を解決させる」というゴールを目指します。

２．進行要領

＜タイムスケジュール＞

17：30～17：35（5 分）	１．企画説明
17：35～17：45（10 分）	２．お悩み解決フェイズ（記入フェイズ）
17：45～18：00（15 分）	３．フリートーク

＜詳細＞

１．企画説明（５分）

実行委員から説明を行います。

２．お悩み解決フェイズ（10 分）

全員起立して開始です！

各テーブルに設置されているタイムラインに書かれた各自の悩みについて、解決策やアドバイス、共感や意見をペンで記入していってください。（図参照）

【注意点】

・書く内容は必ずしも正解である必要はありません！
　なるべくたくさん記入しましょう。

・一人２案以上書き込むこと！

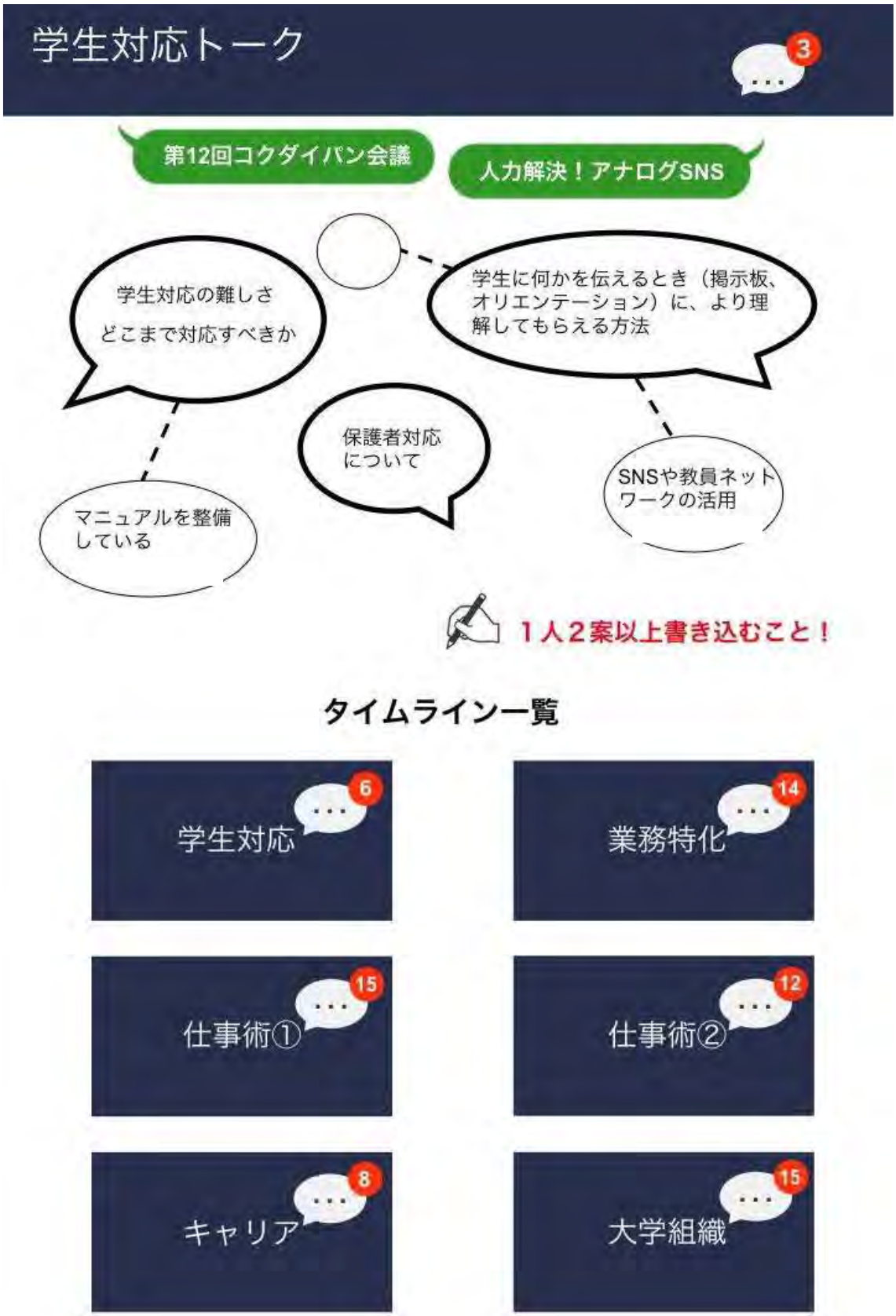
・記入の際は、自分の所属機関名と名前を記載すること！

３．フリートーク（15 分）

１０分が経過したら、実行委員がお知らせします。

その後はフリートークです。それぞれ自分が聞きたいテーマ、関わりたい話題のタイムラインのテーブルに移動し、意見交換してください。なお、新しく出た意見はタイムラインに追記していってください。

なお、終了後の懇親会会場にもアナログ SNS のタイムラインを貼り出します！ぜひ自分の悩みにアドバイスを書いてくれた人を見つけて、詳しく話を聞いてみてください！


学生対応トーク
3
第12回コクダイパン会議
人力解決！アナログSNS
学生対応の難しさ
どこまで対応すべきか
学生に何かを伝えるとき（掲示板、オリエンテーション）に、より理解してもらえる方法
保護者対応について
マニュアルを整備している
SNSや教員ネットワークの活用
1人2案以上書き込むこと！
タイムライン一覧
学生対応
6
業務特化
14
仕事術①
15
仕事術②
12
キャリア
8
大学組織
15

懇親会について

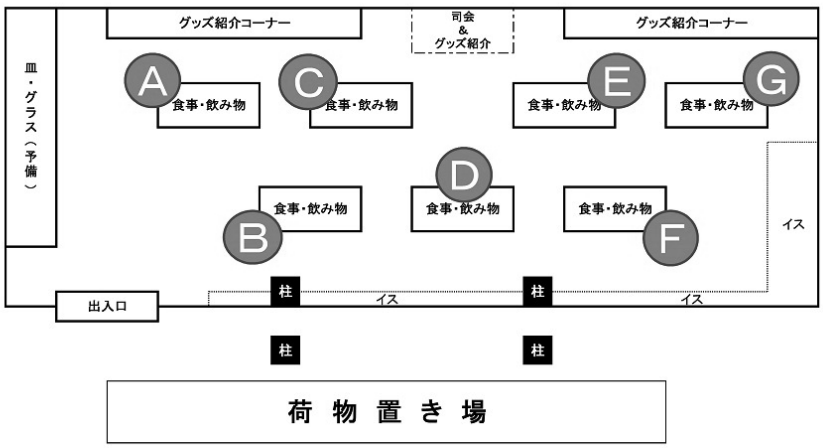
日時

10 月 7 日(日)18:10〜20:30(140 分) ※完全撤収 21:00

会場

吉田キャンパス　食堂 (ボーノ)

（配置図）



企画

（１）大学グッズ紹介

1 日目の受付時に、大学グッズ紹介受付簿に、「大学名」「品名」「代表者氏名」を記入の上、グッズは係の者に預けてください。係の者が懇親会会場に配置させていただきます。

なお、持参した大学グッズの取り扱いについて、グッズ争奪クイズ大会の景品とするか、参加者持ち帰り自由（お菓子、ノベルティ等）とするか、自分で持ち帰るか、ご希望をお伝えください。

受付簿に記入が終わりましたら、大学グッズ紹介番号札を渡しますので、懇親会まで無くさぬよう保管してください。番号札に書かれた数字が、懇親会で発表して頂く順番となります。

（２）グッズ争奪クイズ大会

受付にて大学グッズをお預けになる際、グッズをクイズ大会に出品される方で、事前にクイズ内容をご連絡頂いていない場合は、用紙に問題と答えを記入の上、ご提出ください。

クイズ大会は、各大学のグッズ紹介が終了後、司会から問題を出題させて頂きます。最初に正解を出すことができた方に、大学グッズを景品として贈呈します。（適宜ヒント等を出す場合がありますが、ご了承ください）

帰りの湯田温泉駅までの交通手段

（１）ジャンボタクシー

9人乗りのジャンボタクシーを3台用意しています。山口大学～湯田温泉駅間を往復運行します。乗り場は正門駐車場横のバス停です（MAP参照）。

発車時刻：　20時40分　（以降、3台で往復運行）

料　　金：　無料　（懇親会費から拠出）

（２）タクシー

3～4人程度の乗り合い利用で、湯田温泉駅まで向かうことをお勧めします。

〔山口大学近郊タクシー会社〕

湯田都タクシー株式会社　（083-922-0232）

有限会社中司タクシー　（083-922-0812）

料　　金：　約800円　（交通状況等により金額が増減する場合があります）

※路線バスについては、懇親会終了時点（20時30分予定）で最終便の運行が終了しています。湯田温泉駅までの移動の際は上記のジャンボタクシー等をご利用ください。

おすすめ！パンスポット

～天気が良ければお外で食べればいいじゃない～

みなさんお待ちかねのパンランチ！
ぜひとも会場の外に出て、自然あふれる
山口大学のキャンパスをお楽しみください。

ジブリ感あふれる
隠れ家的空間。

山口大学自慢の『りぶカフェ』
で、おしゃれなひとときを。

全体会会場の目の前。
早い者勝ち！

会場
（人文学部）

大人数でワイワイ食べる
ならコチラ！

春には桜が、秋には紅葉が
楽しめる定番スポット。

図書館

パンを食べながら、
芝生でのんびり。

体育館

山口大学のほぼ中心、
学生にも人気の東屋。

長州ファイブに想いを馳せて。

学内屈指の癒しスポット。
自然を楽しみながら。

第 12 回コクダイパンワークシート

１．業務で直面している解決したい課題・問題点、職場における自分たちの課題（事前）		
２－①．課題・問題点の原因（事前）	２－②．課題・問題点の原因（分科会Ⅰ・Ⅱを通して再考）	２－③．課題・問題点の原因（分科会Ⅲを通してさらに再考）
３－①．考えられる解決策、自分が今できる解決策（事前）	３－②．考えられる解決策（分科会Ⅰ・Ⅱを通して再考）	３－③．考えられる解決策（分科会Ⅲを通してさらに再考）
	４－②．解決策を実行するために自分ができること(分科会Ⅰ・Ⅱを通して検討)	３－③．解決策を実行するために自分ができること（分科会Ⅲを通して再考）
◆メモ欄①　コクダイパンできいてみたい・知りたいと思っていること等があれば記入してください（事前）。	◆メモ欄②　分科会Ⅰ・Ⅱを通して、解決策に取り入れたいと思った新しい視点や考え方があれば記入してください。	◆メモ欄③　グループディスカッションを通して、解決策に取り入れたいと思った新しい視点や考え方があれば記入してください。

第１２回コクダイパン会議 参加者アンケート

※このアンケートへの回答は、今後のコクダイパン会議及び関連する取り組みの企画・運営以外の目的には使用しません。
また、アンケート結果の公表時等において回答者が特定されることはありません。

１.会議に参加するにあたって

1-1.所属機関における、コクダイパン会議開催の周知状況を教えてください。（複数回答可）

☐ メールによる周知 ☐ 学内掲示版・ＨＰへの掲載 ☐ 紙媒体での配布・回覧
☐ その他の方法（　　） ☐ 周知はなかった

1-2.所属機関において、コクダイパン会議参加に対する何らかの支援はありましたか？（複数回答可）

☐ 出張扱い・代休日の措置 ☐ 旅費の一部支給 ☐ 旅費の全額支給
☐ 参加費（懇親会費を除く）の一部支給 ☐参加費（懇親会費を除く）の全額支給
☐ 懇親会費の一部支給 ☐ 懇親会費の全額支給
☐ その他の支援（具体的に：　　） ☐ 特に支援はなかった

1-3.所属機関において、何らかの支援があった方にお伺いします。
その支援はどの程度あなたの参加意向に影響しましたか？

☐影響した（支援がなければ、参加しなかった）
☐ あまり影響しなかった ☐ 影響しなかった（支援なしでも参加した）

1-4.第 12 回コクダイパン会議のことは何を通じて知りましたか？（複数回答可）

☐ コクダイパン会議のＨＰ又はブログ ☐ コクダイパン会議のＭＬ ☐ 所属機関からの通知
☐文教速報・文教ニュース ☐ 友人・知人から ☐ その他（　　）

1-5.コクダイパン会議に出席することによって、あなたが「得たい・身につけたい」と考えたものの中で、当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

☐ モチベーションや新たな目標 ☐ 新たな視点やアイディア ☐ 仲間・人脈
☐ 自主性・積極性 ☐ その他（　　）

２.会議全体について

2-1-1.事前に、コクダイパン会議のＨＰ、ブログ、Facebook はご覧になっていましたか？

（HP） ☐よく見た ☐ときどき見た ☐ほぼ見なかった ☐まったく見なかった
（ブログ） ☐よく見た ☐ときどき見た ☐ほぼ見なかった ☐まったく見なかった
（Facebook） ☐よく見た ☐ときどき見た ☐ほぼ見なかった ☐まったく見なかった

2-1-2.上記で「ほぼ見なかった」「全く見なかった」を選んだ方について、その理由を教えてください。

（　　）

2-2-1.会議の日程（スケジュール）についてご意見をお聞かせください。

☐長い ☐ちょうどよい ☐短い

2-2-2.その他、日程や開催時期についてのご意見をお聞かせください。（複数回答可）

☐土曜日のみの開催　☐日曜日のみの開催　☐土曜日と日曜日の２日間の開催
☐３連休のうちの土曜・日曜の２日間　☐３連休のうちの日曜・月曜の２日間
☐平日の開催　☐その他（　　）

2-3.参加費についてご意見をお聞かせください。

☐高い ☐ちょうど良い ☐安い

2-4-1.お配りしたグッズの感想を教えてください。

☐満足 ☐まあ満足 ☐普通 ☐やや不満 ☐不満

2-4-2.どんなグッズなら嬉しいですか？自由にご記入ください。

（　　）

2-5-1.アイスブレイク「〇〇 × 私」の満足度を教えてください。

☐満足 ☐まあ満足 ☐普通 ☐やや不満 ☐不満

2-5-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。

（　　）

2-6-1.「分科会Ⅰ」の満足度を教えてください。

☐満足 ☐まあ満足 ☐普通 ☐やや不満 ☐不満

2-6-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。

（　　）

2-7-1.分科会Ⅱ「事例紹介」の満足度を教えてください。

☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ 普通 ☐ やや不満 ☐ 不満

2-7-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。

（　　）

※裏面に続きます

第１２回コクダイパン会議 参加者アンケート

2-8-1.分科会Ⅱ「ワールドカフェ」の満足度を教えてください。
☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ 普通 ☐ やや不満 ☐ 不満
2-8-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。
（　　）
2-9-1.「アナログ SNS」の満足度を教えてください。
☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ 普通 ☐ やや不満 ☐ 不満
2-9-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。
（　　）
2-10-1.「懇親会」の満足度を教えてください。
☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ 普通 ☐ やや不満 ☐ 不満
2-10-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。
（　　）
2-11-1.「分科会Ⅲ」の満足度を教えてください。
☐ 満足 ☐ まあ満足 ☐ 普通 ☐ やや不満 ☐ 不満
2-11-2.満足な点、不満な点について、自由にご記入ください。
（　　）
2-12.会議に参加することによって、あなたが「得られた、身に付けることができた」と考えるものの中で、当てはまるものを選んでください。（複数回答可）
☐ モチベーションや新たな目標 ☐ 新たな視点やアイディア ☐ 仲間・人脈
☐ 自主性・積極性 ☐ その他（　　）
2-13.今回のコクダイパン会議実行委員会の対応（事前連絡や当日の運営等）について、感想やご意見をお聞かせください。
（　　）

３.今後について
3-1.今後のコクダイパン会議で実施してほしい企画や取り上げてほしいテーマがあれば、自由にご記入ください。
（　　）
3-2.次回コクダイパン会議の開催地の希望があればご記入ください。（自薦も可です！）
（　　）
3-3.今後もコクダイパン会議に参加したいと思いますか？（複数回答可）
☐ 自費であっても、参加したい ☐ 開催地による（東京・大阪等の大都市周辺であれば）
☐ 開催地による（地方の大学であれば） ☐ 近距離であれば参加したい
☐ 所属機関において費用面等での支援があれば、参加したい ☐ 参加を希望しない
☐その他
（　　）
3-4.コクダイパン会議に関する今後の活動の企画・運営スタッフになることに興味がありますか？
☐ ぜひやってみたい！ ☐ 興味がある ☐ 現時点ではない
3-5.コクダイパン会議に関する今後の活動の企画・運営スタッフになることに興味がある方は ID と氏名を記入してください。
ID（　　）　氏名（　　）

４.その他
4-1.その他、感想やご意見など自由にご記入ください。

（　　）

アンケートへのご協力ありがとうございました。

コクダイパン会議にご参加いただき、誠にありがとうございました。
またお会いできる日を、実行委員一同、 心より楽しみにしております。